ヘルパー

鎮圧式整形管理機

取扱説明書

K652NP
ねぎパンチャー

当製品を安全に、正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

関東農機株式会社

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。
ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。
また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安 全 第 一

本書に記載した注意事項や機械に張られた⚠の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取り扱い説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように説明しています。

⚠ **危険：**注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを表示します。
⚠ **警告：**注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。
⚠ **注意：**注意事項を守らないとけがを負うおそれがあるものを表示します。

目次

⚠ 安全に作業するために

機体方向の説明 !-1
諸注意事項 !-2
警告ラベルと貼り付け位置 !-6

サービスと保障について

各部の名称と装置の取扱い

各部の名称 1
エンジンスイッチ 4
主クラッチレバー 4
主変速レバー 4
副変速レバー 5
アクセルレバー 5
燃料コックレバー 5
チョークレバー 5
リコイルスタータ 6
タタキイタクラッチ 6
ハンドル上下レバー 6
尾輪締付ボルト(ジャッキボルト) 6
尾輪上下ハンドル 6
燃料ゲージ 7
緊急停止スイッチ
(エンジン停止スイッチ) 7
燃料タンク 8

作業前の点検

ボルト・ナットの点検 9
給油・注油 9
安全に作業するために 11

運転のしかた

新車時の扱いかた 12
ならし運転 12
エンジンの始動と停止のしかた 12
始動のしかた 12
停止のしかた 13
発進のしかた 14
ハンドル高さの調節 15
耕深の調節 16
タタキイタの調節 16

作業のしかた

上手な作業のしかた 18
土揚げ作業手順 18
タタキイタの使用方法 19
方向転換時のハンドル調整 20
カバーの調節 21

管理機の簡単な手入れと処置

耕うん爪の取り付け方 22
廃棄物の処理について 23
日常の手入れ 23
エンジンオイルの交換 23
ミッションオイルの交換 23
エアクリーナエレメントの清掃
とオイルの交換 24
燃料フィルタの清掃 25
点火プラグの調節・清掃・交換 25
Vベルトの張りの調整 26
ロータリクラッチの調整 27
アクセルレバーの調整 27
ハンドル上下レバーの調整 27
ブレーキの調整 27
使用後の手入れ 28
エンジン始動不良を防ぐために 28
長期格納時の手入れ 28
燃料の抜き取り 28
洗浄時の注意 29
自動車(トラック)への
積込み、運搬 30

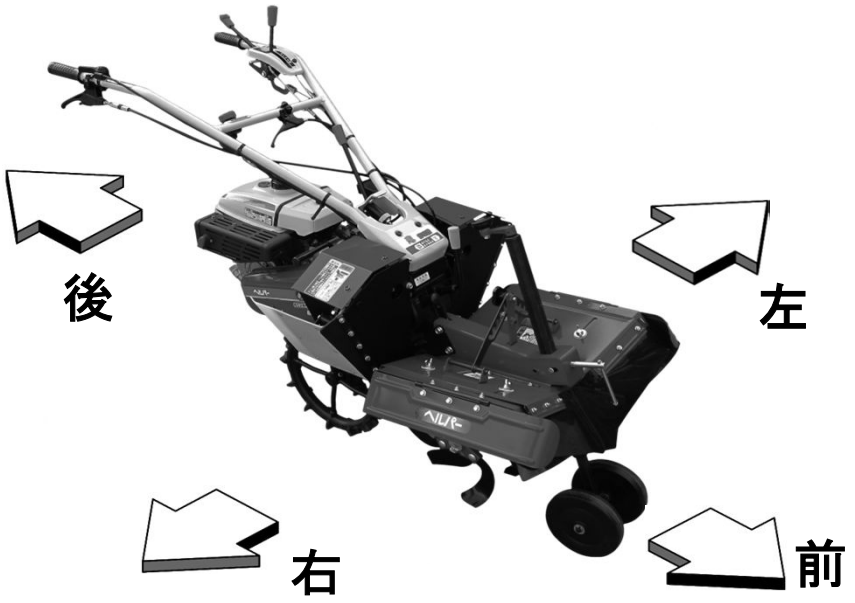
付表

主要諸元 31
標準付属品 32
主な消耗部品一覧 32

トラブルと処置

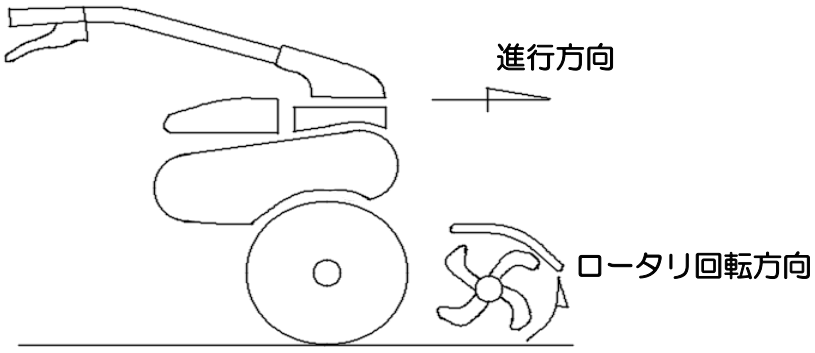
⚠ 安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ず「取扱説明書」をよく読み、理解した上で安全な作業をしてください。
この「取扱説明書」で使用している＜前後、左右＞などの≪用語≫は図示のように決めています。



ハンドル位置と進行方向及びロータリ回転方向

この機械は下図の形で作業を行ってください。



⚠ 安全に作業するために

管理機の取扱いは正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で効率的な作業を行うために、次のことをお守りください。

⚠危険　以下の項目に該当する人は、機械を使用しないでください
1．飲酒時や体調の悪い時、または妊娠中の人
2．本書及びラベルの内容が理解できない人
3．視力不足などのため表示内容が読めない人
4．16歳未満の人
5．ハンドルを操縦する体力に自信のない人
〈守らないと〉
死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。

⚠危険　作業に適した服装
1．はち巻・首巻・腰タオルは厳禁　　2．だぶつきのない服装
3．ヘルメットなどの防護具の着用
〈守らないと〉
機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険がありあます。

⚠危険　他人に機械を貸すときは取扱い方法を説明する
取扱い方法を説明し、使用前に取扱い説明書を必ず読むように指導してください。
〈守らないと〉
死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。

⚠危険　機械の改造禁止
純正部品や指定アタッチメント以外の部品を取付けないでください。
機械を改造しないでください。
〈守らないと〉
死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。

⚠注意　点検・整備を行う
機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。
定期の点検・整備は必ず受けてください。
〈守らないと〉
自己・ケガ・機械の破損を招く恐れがあります。

⚠警告　ロータリー作業ではダッシュに注意
土が硬かったり石の多い場所ではロータリーをゆっくりと地面に下ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す（ダッシュする）ことがあります。
〈守らないと〉
傷害事故を引き起こす恐れがあります。

⚠危険　ハウス内での作業は換気を充分にする
排気ガスが充満しないように充分に換気を行ってください。
〈守らないと〉
排気ガス中毒を起こし、死亡することがあります。

安全に作業するために

警告　子供を近付けない

子供には十分に注意しロータリーに乗せたり近付けないようにしてください。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こす恐れがあります。

警告　作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を読む

作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の説明書をよく読んで理解してください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。

警告　作業機の脱着は平坦な場所で行う

作業機の脱着は平坦で安定した場所で行ってください。
夜間は適切な照明をしてください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。

警告　溝、あぜ越えは、アユミ板を使用する

ほ場に入るとき、溝、あぜを渡るときや軟弱な所を通るときは幅長さ、強度の充分にあるアユミ板を使用してください。

〈守らないと〉

転倒やスリップによる事故を引き起こす恐れがあります。

注意　点検・整備は平坦な場所で行ってください

点検・整備は機械が倒れたり、動いたりしない平坦で安定した場所でタイヤに輪止めをして行ってください。

〈守らないと〉

機械が転倒するなど、思わぬ事故を招く恐れがあります。

警告　点検・整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または掃除を行うときはエンジンを停止させ、充分に冷えた状態で行なってください。

〈守らないと〉

ヤケドをする恐れや機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。

警告　カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は必ず元通りに取付けてから作業してください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。

警告　下にもぐったり、足を入れない

ロータリーの点検・整備をするときは、下にもぐったり足を踏みこんだりしないでください。

〈守らないと〉

ロータリーが下がったとき傷害事故を負う恐れがあります。

安全に作業するために

危険　燃料補給・注油時は火気厳禁

燃料を補給する、あるいは機械に注油する際はエンジンを停止させてください。また、くわえタバコでの作業、裸火照明の下での作業は絶対にしないこと。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。

警告　燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給した後は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料をきれいに拭き取ってください。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。

危険　排気ガスには充分に注意する

閉め切った室内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンは風通しの良い屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は充分に換気してください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたる恐れがあります。

注意　マフラーの高温に注意

運転中及びエンジン停止直後のマフラーは高温です。
触れないでください。

〈守らないと〉

ヤケドをする恐れがあります。

警告　マフラー、エンジン周りのゴミは取り除く

マフラー、エンジン周辺にゴミ、ワラクズ、燃料が付着していないか作業前に点検し、付着している場合は取り除いてください。

〈守らないと〉

火災を引き起こす恐れがあります。

警告　坂道、アユミ板の上での変速禁止

適正な変速段を選択し、坂道やアユミ板の上では主クラッチを切ったり変速をしないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こす恐れがあります。

注意　エンジン始動時は周囲の安全を確認する

エンジンを始動する際は主クラッチが**「切」**、主変速が**「中立」**になっていることを確認してください。
リコイルの引き方向に人や障害物、突起物がないか確認してください。
また、周囲に人を近付けないでください。

〈守らないと〉

傷害、事故を引き起こす恐れがあります。

安全に作業するために

注意　発進、作業時は以下のことに注意してください
車速の最低速で主クラッチの「**入**」はゆっくり行い、「**切**」は素早く操作できるよう習熟した上で使用してください。
小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回は行わないでください。
〈守らないと〉
事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。

警告　移動する際はロータリーを停止させる
移動するときはロータリークラッチレバーを「**切**」にしてください。
〈守らないと〉
機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。

警告　運搬には天井のない車を使用する
運搬には荷台に天井のない車を使用してください。荷台の上ではエンジンを切り、手で引き出ししてください。
〈守らないと〉
ハンドルと天井にはさまれたり、転落したりして傷害を負う恐れがあります。

警告
積み降ろしに用いるアユミ板は機体重量に充分に耐え、滑り止めのついたものを使用し確実に固定してください。
荷台の高さが「**1**」に対しアユミ板の長さが「**4以上**」になるものを使用してください。
積み降ろしは平坦な場所で行い周囲に人や障害物がないことを確認し、最低速で上りは「**前進**」下りは「**後進**」で行い、途中で主クラッチを切ったり、変速操作を行わないでください。
〈守らないと〉
転落などの事故を引き起こす恐れがあります。

注意　格納するとき
機体に保管用シートを掛ける場合は、マフラーやエンジンが充分冷えてから掛けてください。
火災予防のため、ワラ・草等可燃物のある場所での保管はしないでください。
〈守らないと〉
火災事故を引き起こす恐れがあります。

注意　夜間作業の禁止
本機には夜間作業灯を装備しておりませんので夜間作業を行わないでください。
〈守らないと〉
事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。

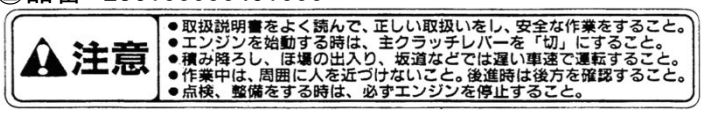
廃棄物の処理
廃油やゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。
〈守らないと〉
みだりに捨てたり、焼却すると法令により処罰されることがあります。

安全に作業するために

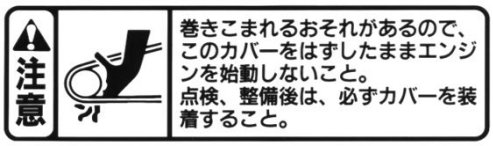
警告ラベルと貼り付け位置(ラベルの絵は原寸ではありません)

①品番　KW56256AA

②品番　236100000451000



③品番　236100000452000

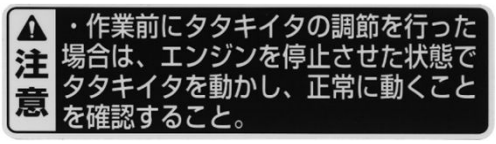


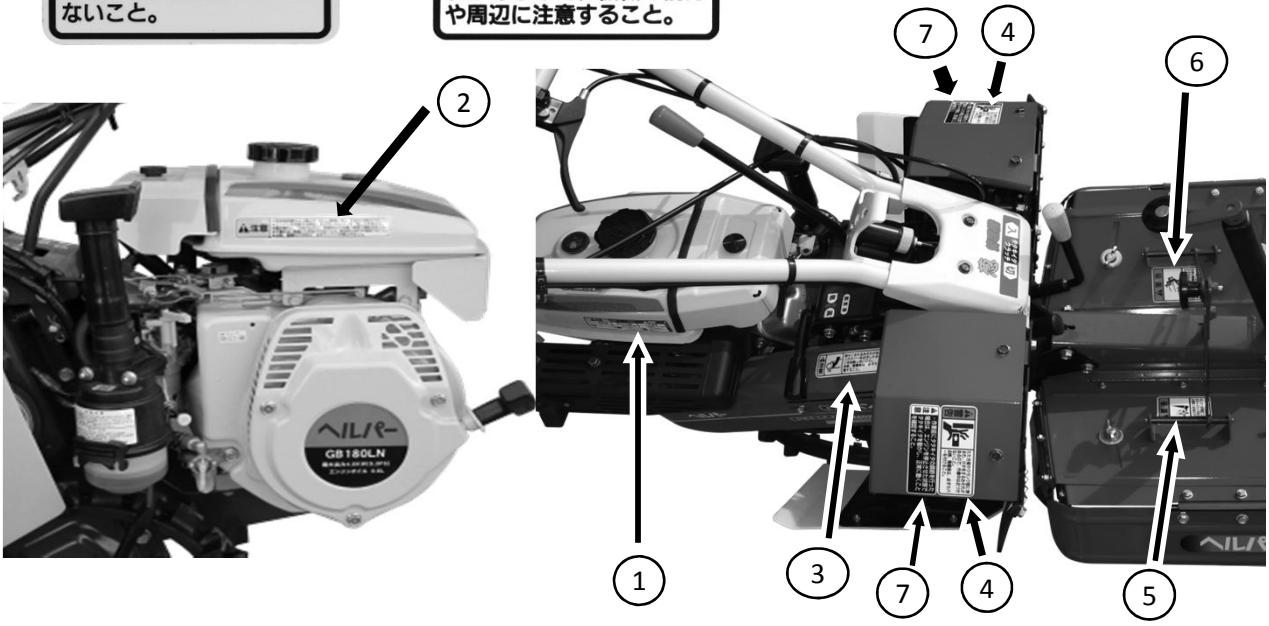
④品番　231600000709000

⑤品番　011452372551000

⑥品番　008171870552000

⑦品番　231590000702000





表示ラベルの手入れ

●ラベルは、いつでもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。
●高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
●破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
●新しいラベルを貼る場合は、貼り付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
●ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

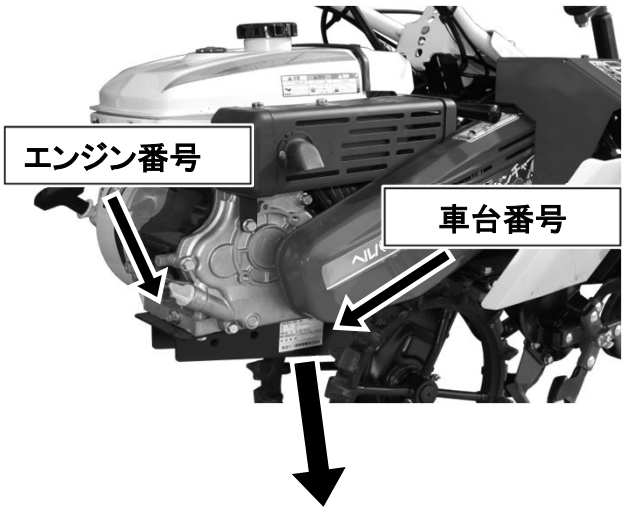
サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので、ご使用前によくご覧ください。

■アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げの販売店又は直接当社にお気軽にご相談ください。

その際　(1)型式名
(2)車台番号(製造番号)
(3)エンジン番号
(4)故障内容(できるだけ詳しく)
・どのような作業をしていましたか
・どのくらい使用しましたか
(アール、又は時間)



農業機械の種類		農用トラクター（歩行型）
型　式　名		K652NP
区　分		
搭載機関	型　式　名	GB180LN
	連続定格出力	3.4kw(4.7PS)/1800rpm
製　造　番　号		
製造元：関東農機株式会社		

⚠警告

機械の改造はしないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故につながる恐れもあります。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる使用を行った場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。

◆認定番号

安全鑑定の農機型式名及び番号が必要な場合は、下記の型式名及び番号をご使用ください。

販売型式名	K652NP
農機型式名	K652NP
安全鑑定番号	37025

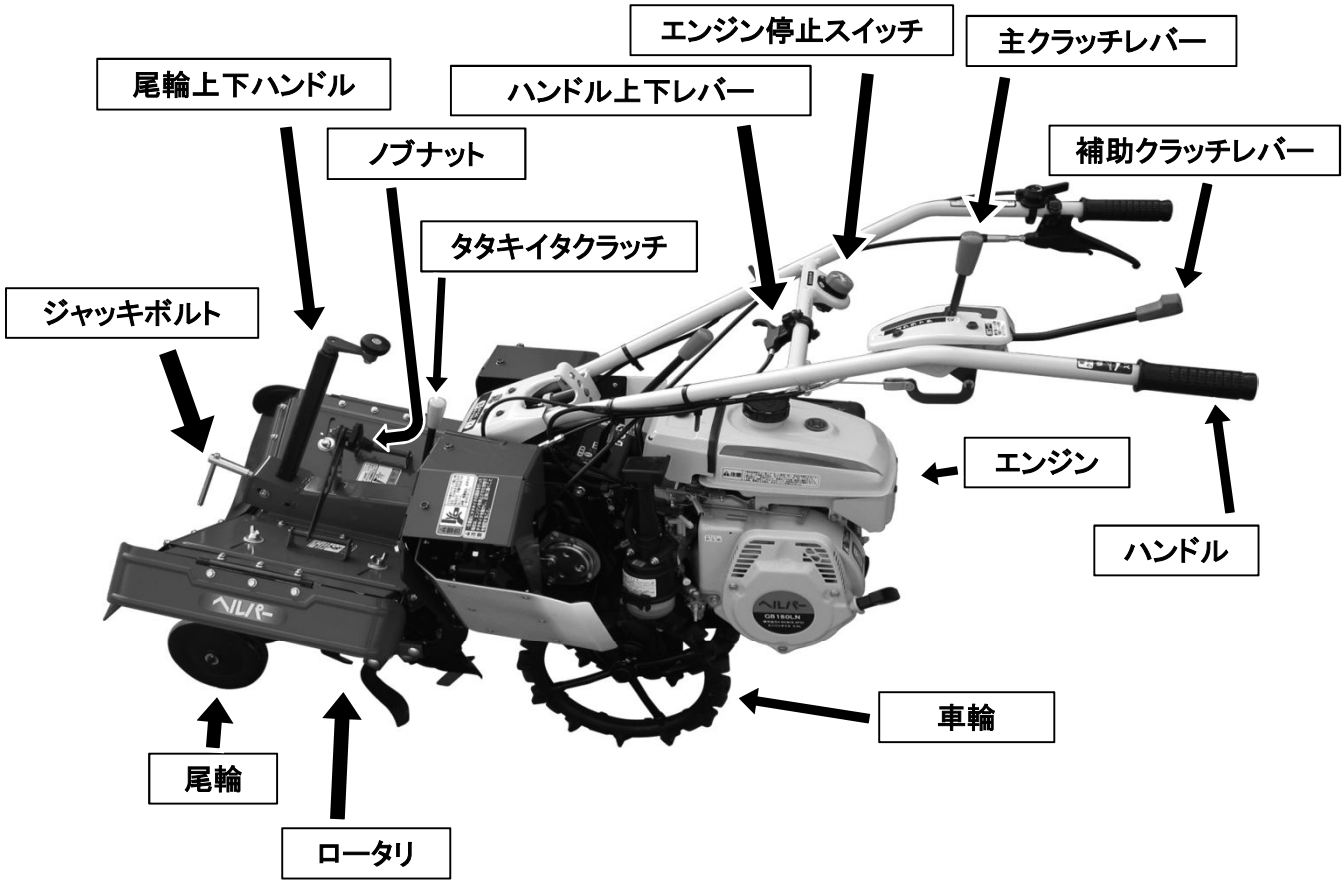
⚠警告

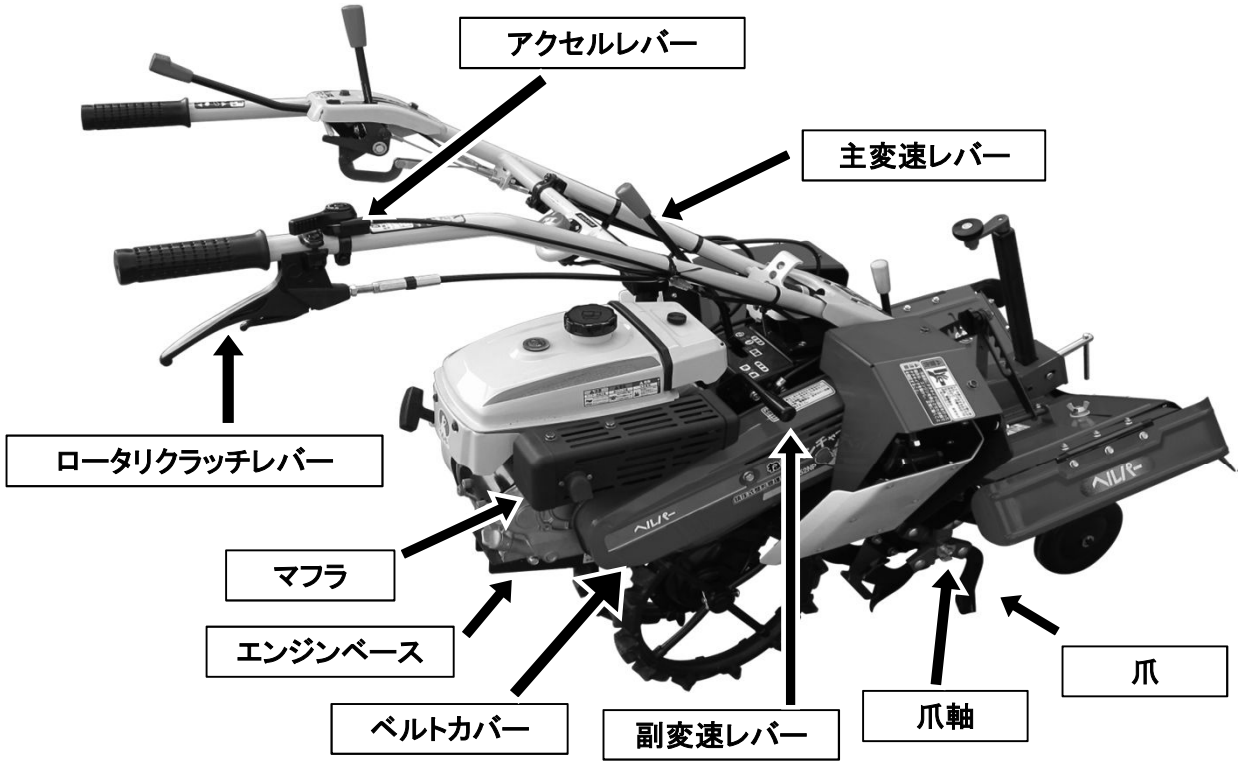
トレーラ走行はできません。
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
一般公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
一般公道を移動するときは、自動車(トラック)に積んで運搬してください。

■補修用部品の供給年限について

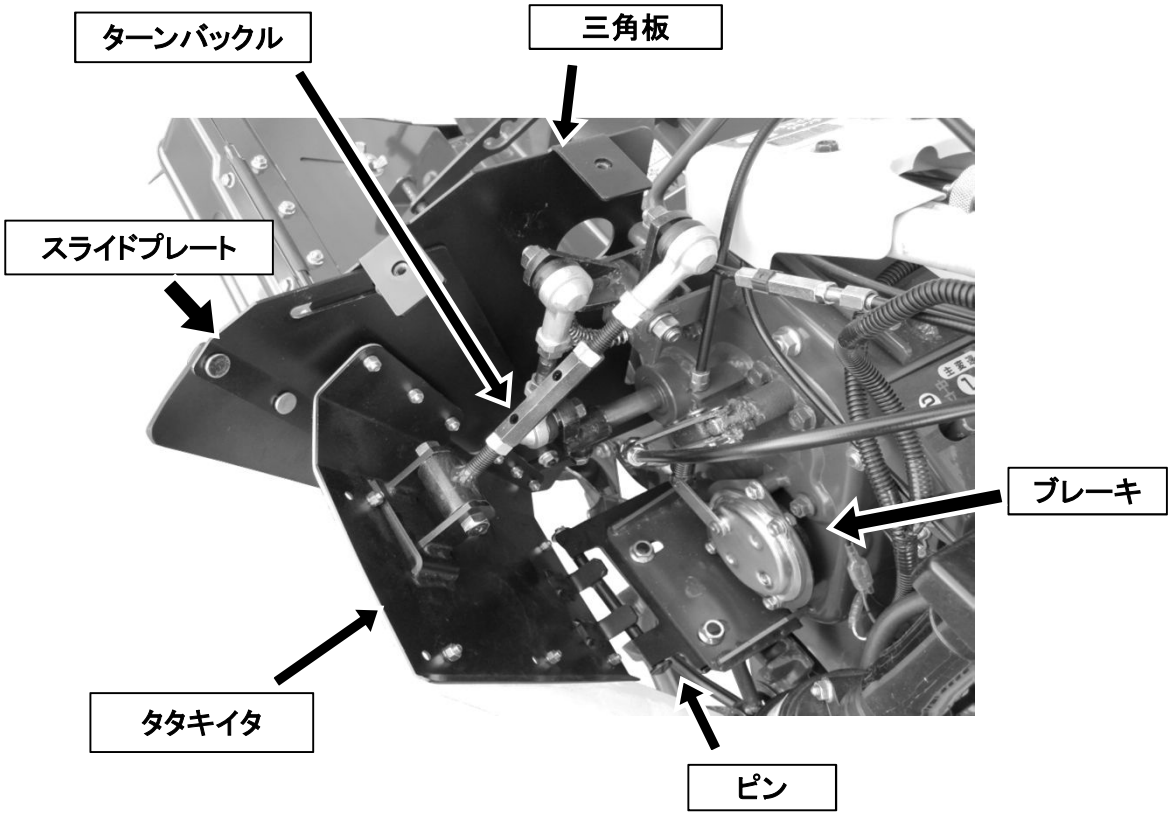
この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についでご相談させていただきます。

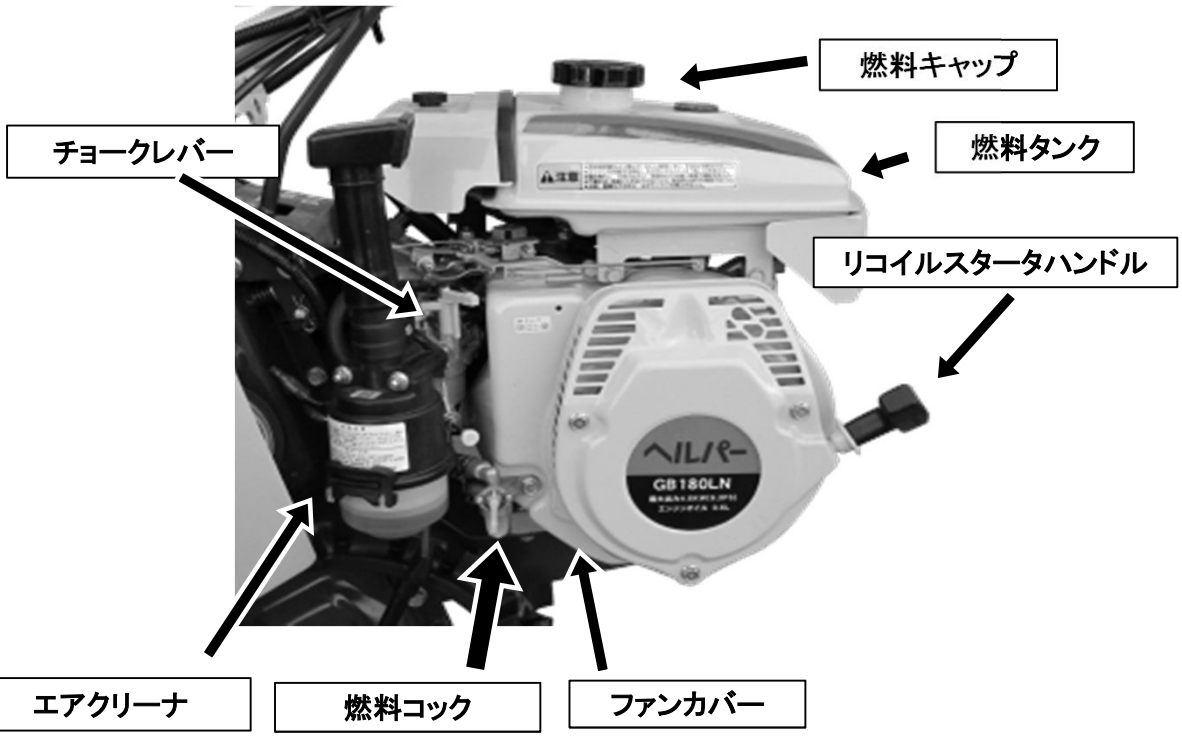
各部の名称と装置の取扱い





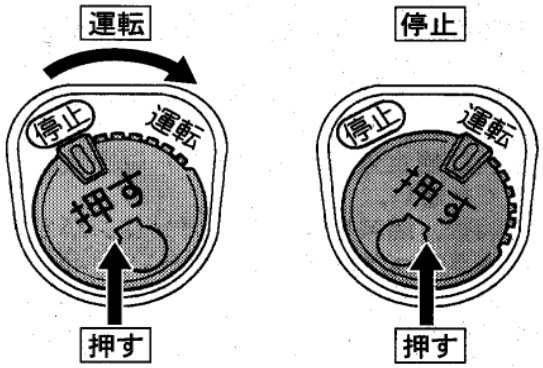
各部の名称と装置の取扱い





各部の名称と装置の取扱い

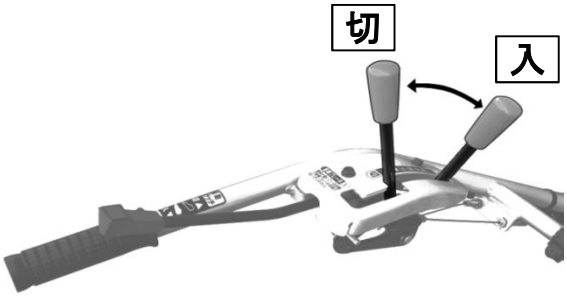
■エンジンスイッチ
エンジンの停止・始動し用います。
始動・・・・ スイッチを押しながら**[運転]**の位置に回すと始動が可能です。
停止・・・・ スイッチを押すと左に回って**[停止]**位置に戻り、エンジンが停止します。



詳細については7ページ、緊急停止スイッチの項参照。

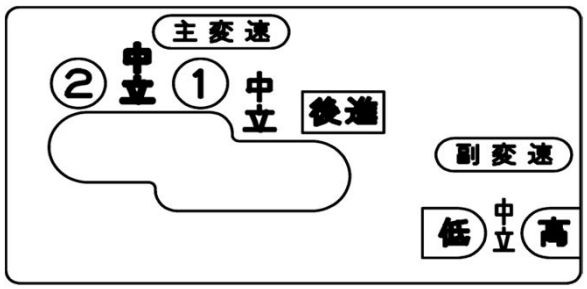
■主クラッチレバー
エンジンからの動力を断続します。
「入」・・・ 主クラッチレバーを前に押し倒すまたは補助クラッチレバーを下に押し下げる。
「切」・・・ 主クラッチレバーを手前に引く、または補助クラッチレバーを上に押し上げる。

⚠注意
傾斜地や後進するときなどは、ハンドルがが持ち上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくりと操作して下さい。
狭い場所や後進の運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上方などまわりの安全を確かめ、ゆっくりと主クラッチレバーを操作して下さい。



■主変速レバー
●走行速度の変速
前進2段、後進1段の変速ができます。

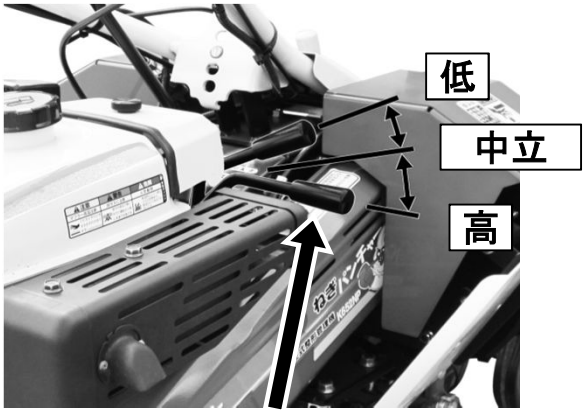
⚠注意
変速操作は主クラッチレバーを「切」の状態にして行って下さい。
エンジンを始動する前に、必ずレバーを「中立」にして下さい。
走行中は変速しないで下さい。



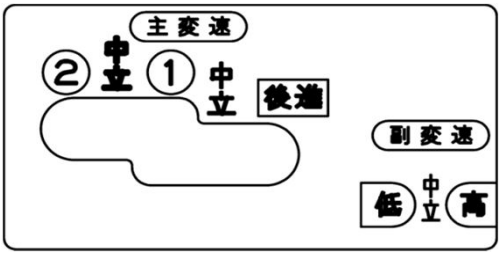
各部の名称と装置の取扱い

■副変速レバー
●走行速度を変速します。
高、低2段に変速できます。

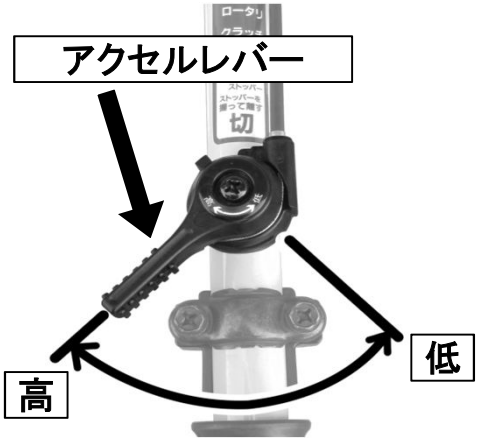
⚠注意
変速操作は主クラッチレバーを「切」の状態にして行ってください。
エンジンを始動する前に必ずレバーを中立にして下さい。
走行中は変速しないで下さい。



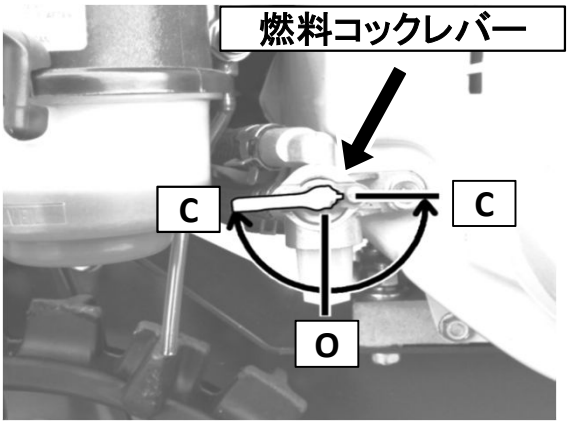
副変速レバー



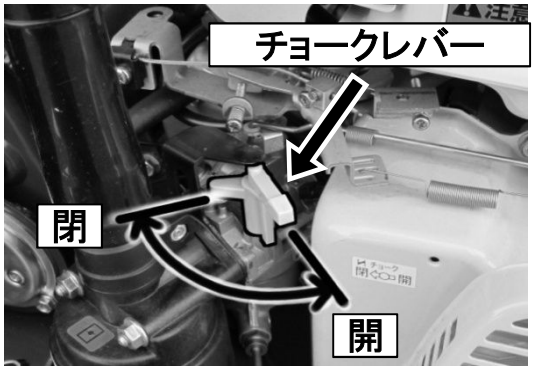
■アクセルレバー
エンジン回転を調節します。
1.「高」の方向に回すと回転が上がります。
2.「低」の方向に回すと回転が下がります。



■燃料コックレバー
●燃料タンクから燃料の「供給」・「停止」をします。
エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めます。
[C]（閉）・・・燃料停止
[O]（開）・・・燃料供給
※コックを開いた状態で、前に倒したり車両で運搬すると、エンジン始動が困難になります。



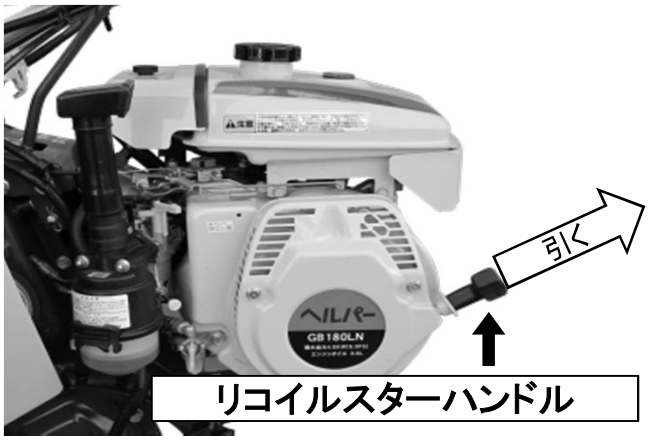
■チョークレバー
●エンジン始動時に使用します。
始動時・・ チョークレバーを[閉]位置に切り替えます。
始動後・・ チョークレバーを[開]位置に切り替えます。



各部の名称と装置の取扱い

■リコイルスタータ
●エンジンの始動をします。
主クラッチを「切」にして、リコイルを引っ張ると始動します。

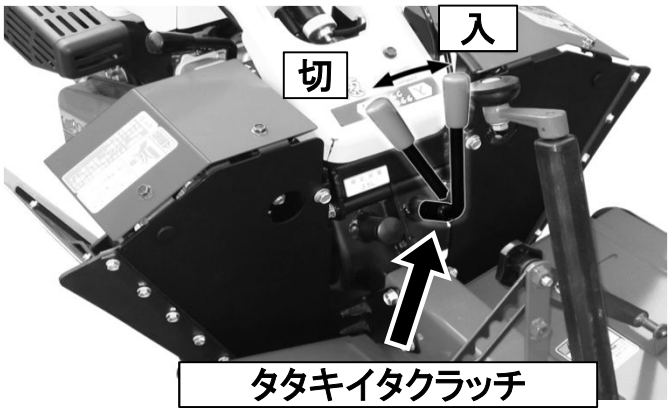
⚠注意
リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか認めてから始動してください。傷害事故の恐れがあります。



リコイルスターハンドル

■タタキイタクラッチ
●整形機（タタキイタ）への動力の断続をします。
「入」・・・　動力が伝わり整形機（タタキイタ）が作動します。
「切」・・・　動力が切れます。
※操作は主クラッチレバーを「切」の位置にしてから行うこと。

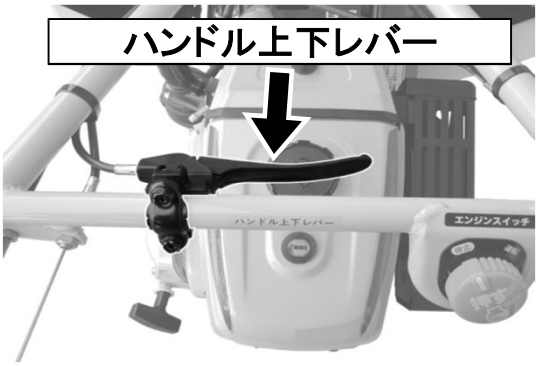
⚠注意
クラッチ操作は必ず主クラッチレバーを「切」にしてから行なって下さい。
移動時はタタキイタクラッチを「切」にして下さい。



タタキイタクラッチ

■ハンドル上下レバー
●ハンドルの高さを調節します。
ハンドル上下レバーを握るとハンドルの高さを調節できます。（5段階）

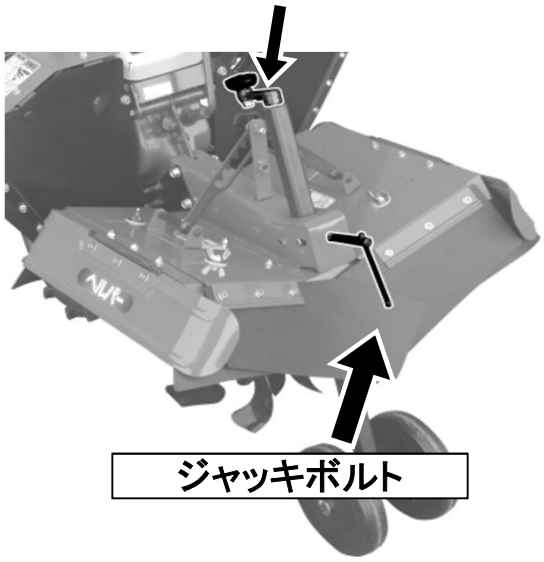
⚠注意
平坦な場所に機械を安定させ、エンジンを必ず停止して行なって下さい。傷害事故の恐れがあります。

ハンドル上下レバー


■尾輪締付ボルト（ジャッキボルト）
●尾輪を固定します。
ボルトをゆるめ尾輪を上下に動かし耕深を調節します。

■尾輪上下ハンドル
●尾輪の上下微調節をします。
尾輪を上げる・・・　ハンドルを右に回します。
尾輪を下げる・・・　ハンドルを左に回します。

尾輪	耕深
上げる	深くなる
下げる	浅くなる

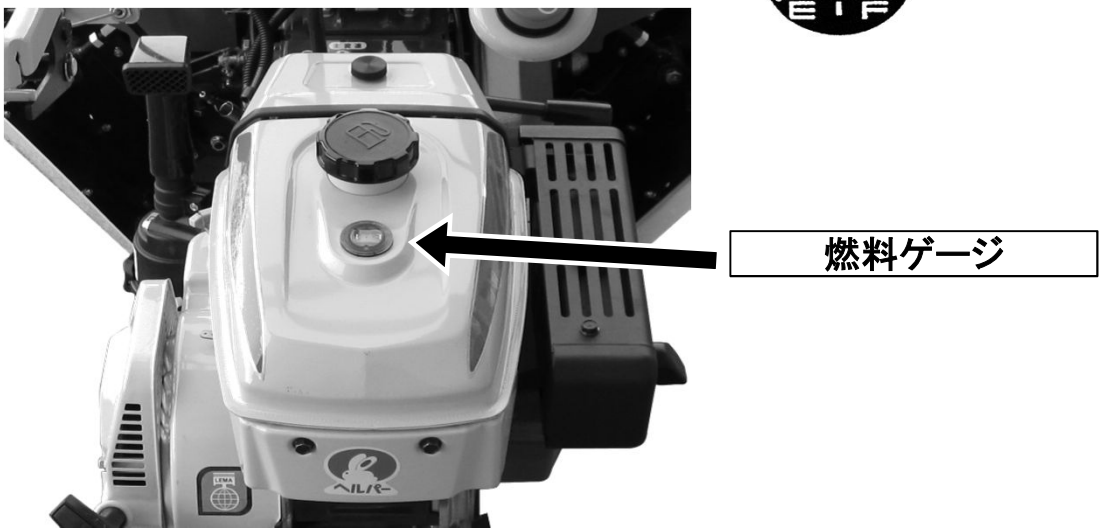
尾輪上下ハンドル


ジャッキボルト

各部の名称と装置の取扱い

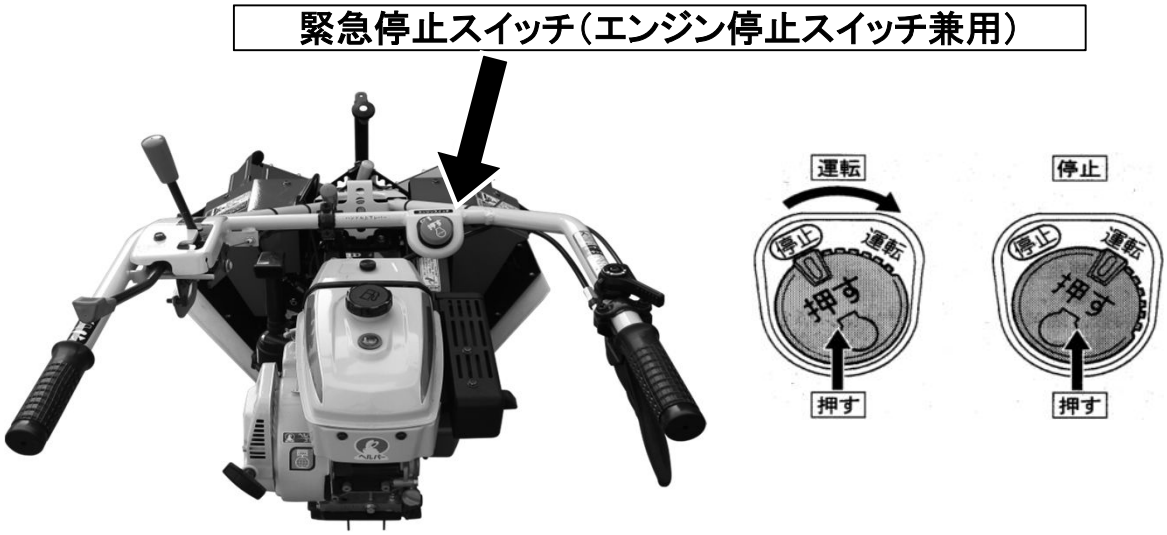
■燃料ゲージ
●燃料タンク内の燃料の目安の残量を確認します。

(1)E側に針が近づく･･･燃料が減っています。
(2)F側に針がある････燃料が有ります。



■緊急停止スイッチ
●ハンドル中央部に設けられた赤いボタンが緊急停止のスイッチです。
緊急の場合には素早くたたくように押してください。スイッチが「停止」の位置になりエンジンの回転停止します。

・操作
1.停止･･･ スイッチを押すと、スイッチが左(反時計回り)に回って「停止」の状態になり、エンジンが停止します。
2.運転･･･ スイッチを押し込みロックを外し、そのまま右(時計回り)に回し、引き上げるようにして手を離すと「運転」の位置でロックされます。



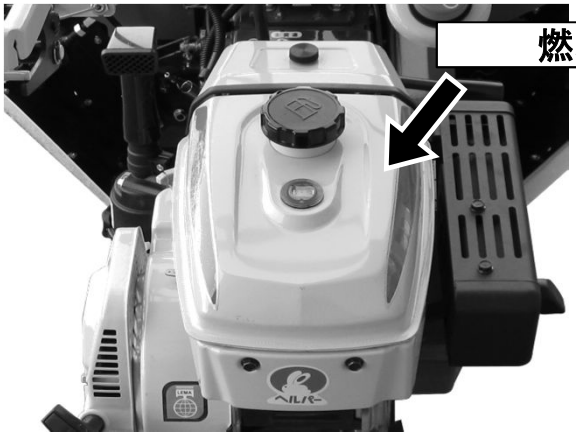
このスイッチはエンジン停止スイッチも兼ねています。通常のエンジンの「運転」「停止」にも使用します。

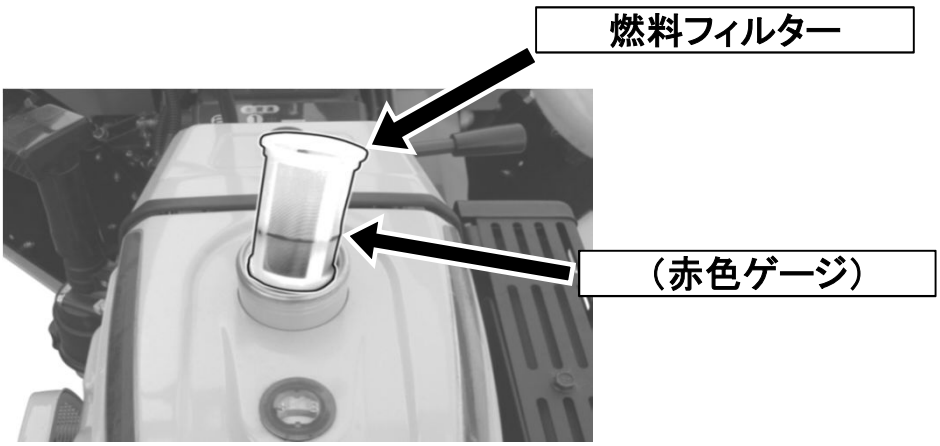
各部の名称と装置の取扱い

■燃料タンク
・燃料は赤色ゲージ以上入れないでください。
・給油するときはエンジンを停止させ、エンジンやマフラが充分に冷えてから行ってください。
・火気厳禁。くわえタバコでの給油は絶対にしないでください。
・燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。

本機のエンジンは**自動車用レギュラーガソリン**を使用します。

燃料の種類	規定容量
自動車用レギュラーガソリン	3.0L





作業前の点検

⚠注意

・平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
・点検はエンジンを停止させ、エンジンやマフラーがじゅうぶんに冷えてから行なってください。

（1）ボルト・ナットの点検
エンジン・ハンドル・各結合部などのボルト・ナットの締付を点検します。

⚠警告

・給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。
・火気厳禁。くわえタバコでの給油は絶対にしないでください。
・燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。
・燃料は規定量（赤ゲージ）以上入れないでください。
・給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようにしっかりと締めてください。
・上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

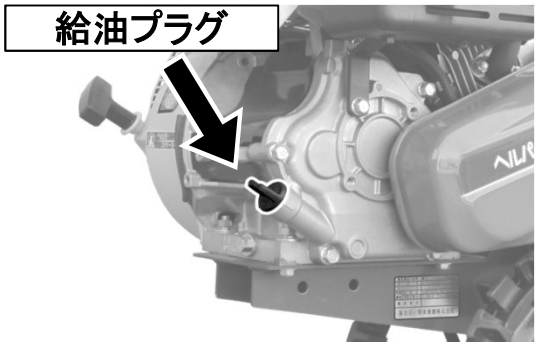
（2）給油・注油

重 要
各給油箇所には工場から出荷の際オイルを入れておりません。
下記の給油・脂表にしたがって必ずご使用前に給油してください。

給油箇所	種類	容量
エンジン（GB180LN）	エンジンオイル	0.6L
燃料タンク	自動車用無鉛レギュラーガソリン	3.0L
ミッションケース	ミッションオイル	3.5L
耕うん軸、車軸、レバー支点	グリス	別途指示
ワイヤー類	エンジンオイル	別途指示

※エンジンオイル　・・・・・・・　10W-30
※ミッションオイル　・・・・・・・　＃80又は＃90

◆エンジンオイル
●エンジンを水平にして給油し、オイルゲージで規定量あるか確認します。
●不足している場合、エンジンオイル10W-30を補充します。（ガソリンエンジン用）
※オイルゲージはきれいな布でオイルをふき取ったあと、エンジンの給油口に差し込み使用してください。この時、下の図のように、ねじ込まないで使用します。
※出荷時にオイルは抜き取っておりますが、構造上抜ききれないオイルが残存しています。0.6L給油しようとするとあふれる場合がありますので、オイルゲージの規定範囲を目安に給油してください。



●確認が終わったら、オイルが漏れないようにオイルゲージを給油口にしっかりとねじ込みます。

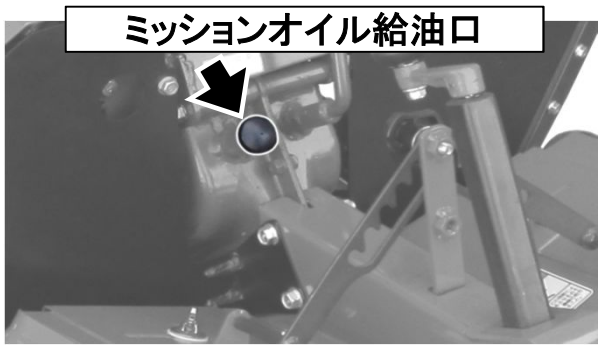
作業前の点検

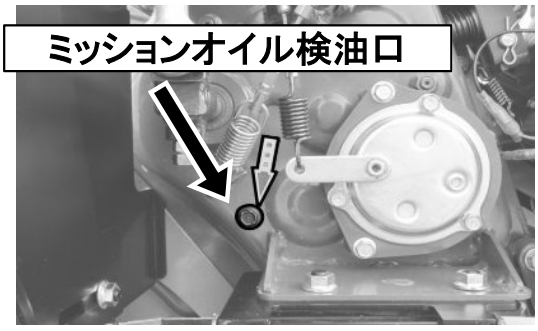
◆ミッションオイル
●ケース右側の注油口よりミッションオイルを規定量入れてください。
●機体を水平にして検油口よりオイルが流れ出れば規定量です。
●不足している場合にはミッションオイルを補充します。

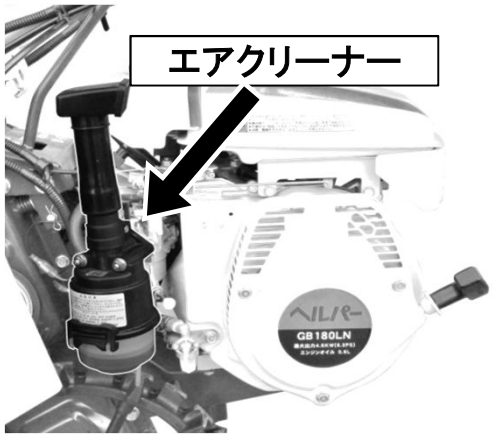
◆エアクリーナ
●エアクリーナにオイルを入れます。(エンジンオイルSC級以上)
●オンジンオイルをOIL↑LEVELまで入れてください。
●エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。

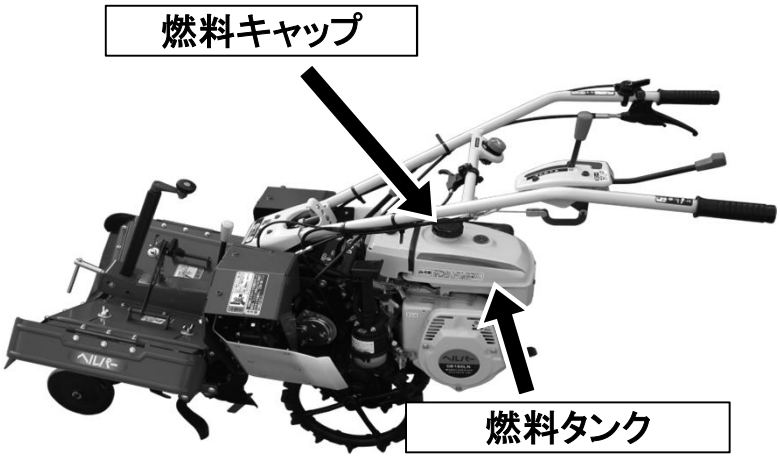
◆燃料
●ロータリ爪接地状態で燃料を入れてください。
●自動車用レギュラーガソリンを補給します。
●タンク容量・・・・3L(赤色ゲージ以下にします。)

◆ケーブル(メインクラッチ、ブレーキ、ハンドル)
◆その他
●エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。
●各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
●各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。









重 要 水やゴミが混入しないようにしてください。

作業前の点検

安全に作業するために

◆主クラッチレバー
●クラッチの「入」「切」が確実に行えるか点検します。
●不良の場合は調整・注油します。

◆ロータリクラッチレバー
●クラッチの「入」「切」が確実に行えるか点検します。
●不良の場合は調整・注油します。

◆主変速レバー
●変速が案内板の位置で確実に行えるか点検します。

◆副変速レバー
●変速が案内板の位置で確実に行えるか点検します。

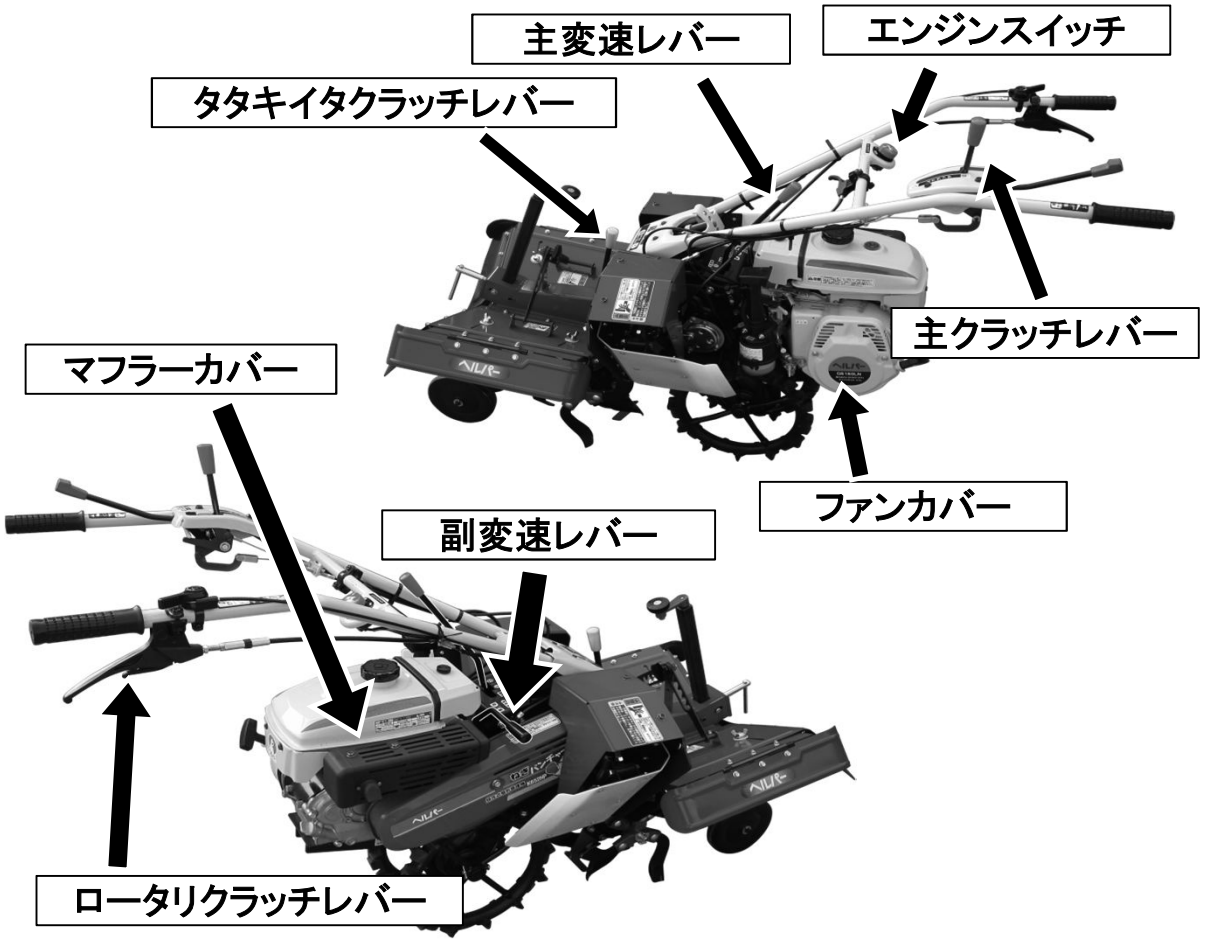
◆タタキイタクラッチレバー
●「入」「切」が確実に行えるか点検します。

◆電気配線
●被覆が溶けたり破れたりしていないか、また配線が挟まれていないか点検します。

◆エンジン周辺部
●ファンカバーやマフラーカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

◆ガソリンもれ
●タンクや燃料パイプからガソリンもれがないか点検します。
もれがある場合は、修理点検します。

◆エンジンスイッチ
●エンジンの始動、停止を確実に行えるか確認します。エンジンが停止しない場合、無理に停止しようとせず、ご購入になった販売店までご連絡ください。



運転のしかた

新車時の扱いかた

■ならし運転（最初の10時間まで）

この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ,無理をさせないようにしてください。

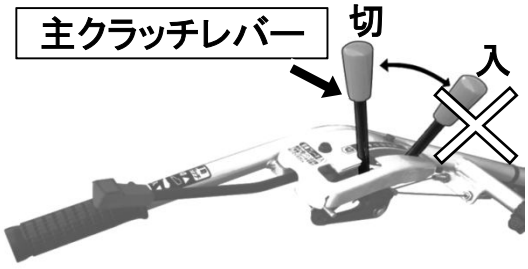
エンジンの始動と停止のしかた

■始動のしかた

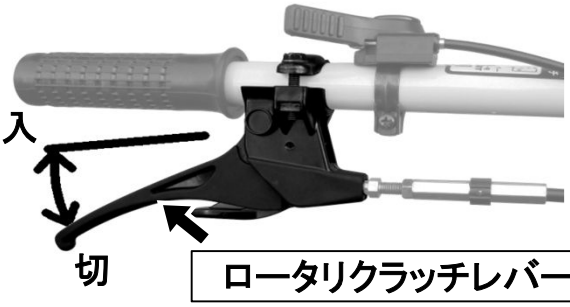
⚠注意

マフラの排気出口方向に、燃えやすい物がないか確認してください。火災の恐れがあります。
リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、障害物・突起物がないか確かめてから始動してください。傷害事故の可能性があります。
エンジンの運転中は危険ですからマフラーやそのほか操作レバー以外のものには触れないでください。火傷や傷害の恐れがあります。。
夜間作業しないでください。
エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず「切」にしてください。

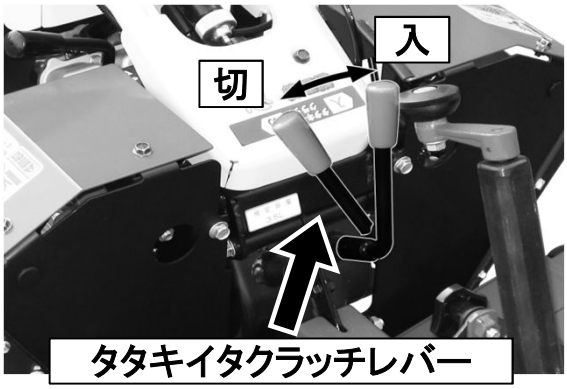
1. 主クラッチレバーを「**切**」にします。
※主クラッチレバーが「**入**」に入っていると
エンジンが始動しません。



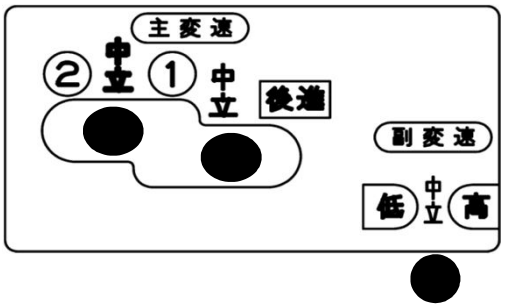
2. ロータリクラッチレバーを「**切**」にします。



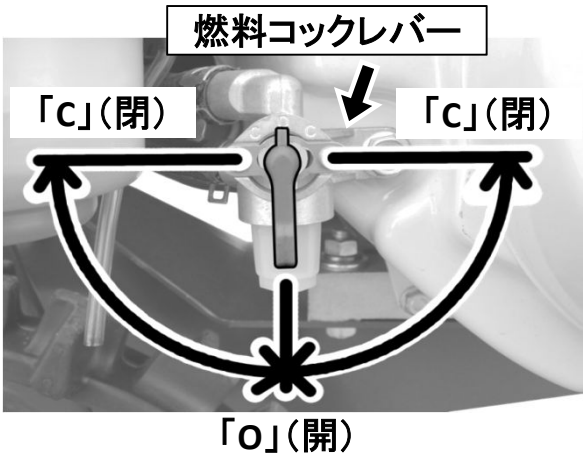
3. タタキイタクラッチレバーを「**切**」にします。



4. 主変速レバー、副変速レバーを「**中立**」にします。

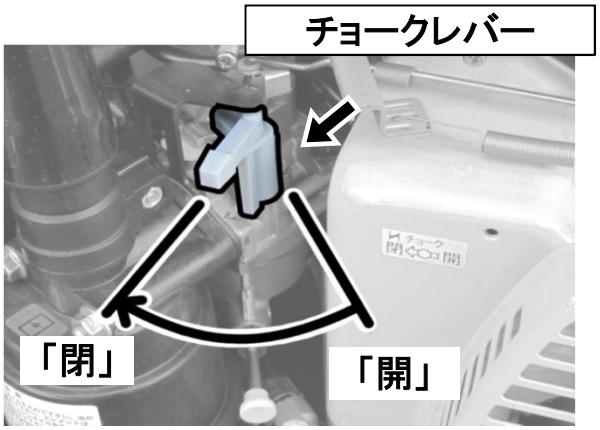


5. 燃料コックを「**O**」（開）にします。

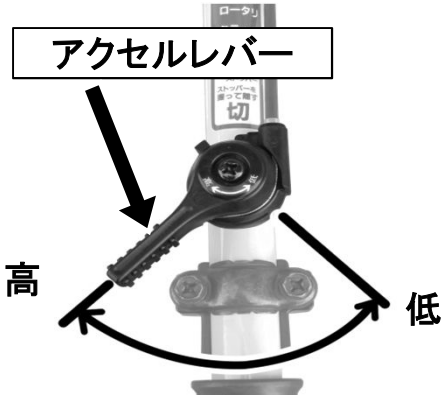


運転のしかた

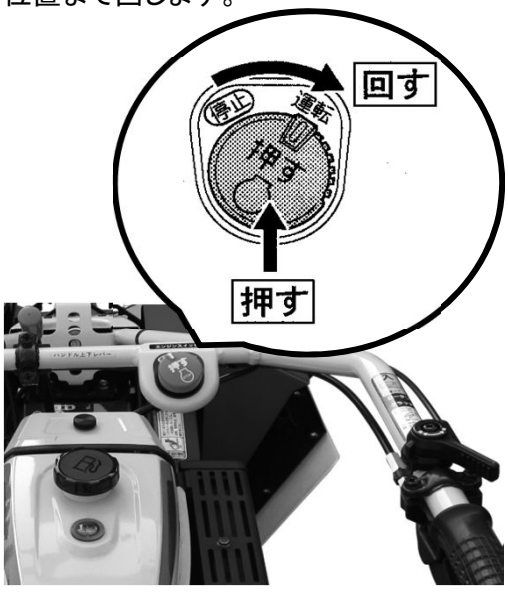
6. チョークレバーを**「閉」**位置に切り替えます。
（ただし、外気温15℃以下の場合）



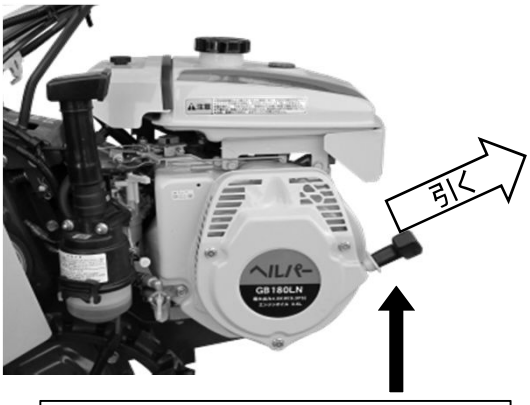
7. アクセルレバーを**「高」**にします。



8. エンジンスイッチを押しながら**「運転」**位置まで回します。



9. リコイルスタータハンドルを握って、引張ります。



10. チョークレバーを「閉」の位置でエンジン始動した場合は、エンジンの運転状態を確認しながらチョークレバーを徐々に「開」の位置に戻します。

11. 2～3分暖気運転をしてから、作業を始じめてください。

重　要

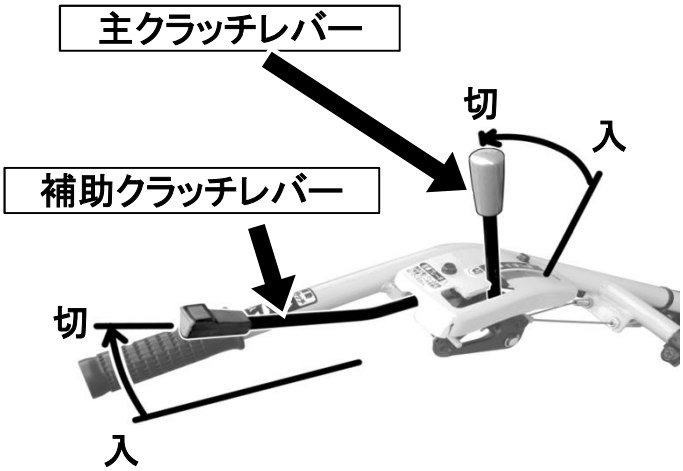
運転中はリコイルスタータを引かないでください。

■停止のしかた

⚠警告

停止直後はしばらくマフラが熱くなっていますので、手を触れないでください。
ヤケドのおそれがあります。

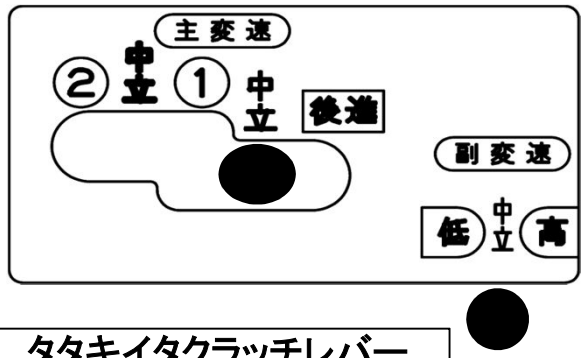
1. ロータリクラッチレバー、主クラッチレバーを「切」にします。

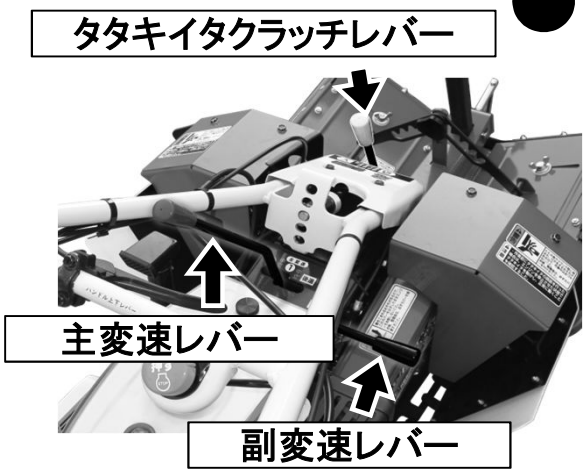


運転のしかた

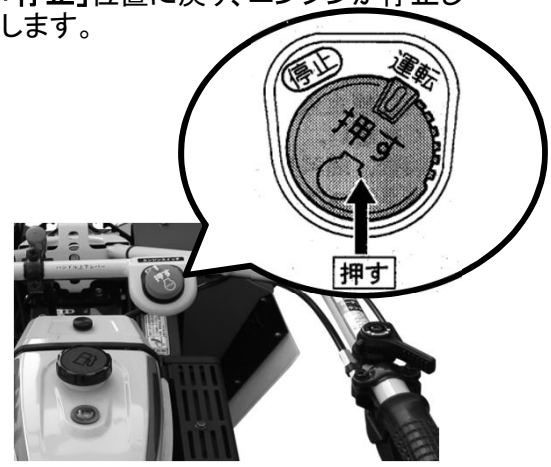
2. アクセルレバーを「**低**」にします。

3. 主変速レバー、副変速レバーを「**中立**」
タタキイタクラッチレバーを「**切**」にします。

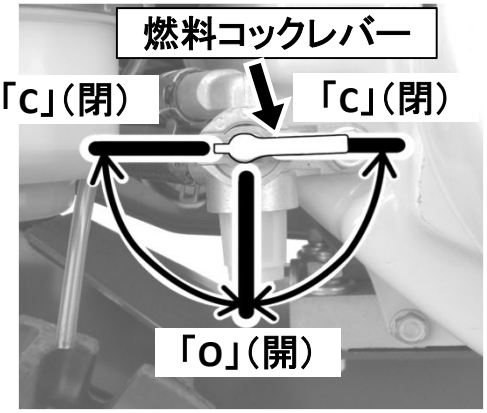




4. エンジンスイッチを押すと左に回って
「**停止**」位置に戻り、エンジンが停止し
します。



5. 燃料コックを「**C**」(**閉**)にします。



重 要

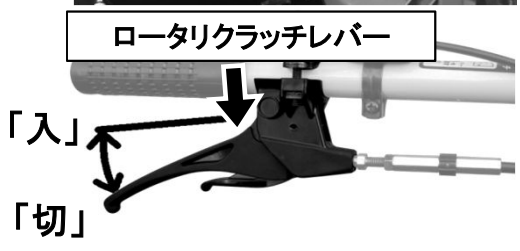
コックを開いたままの状態で保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。
また、クランクケース内へガソリンが逆流することもあります。

発進のしかた

⚠警告

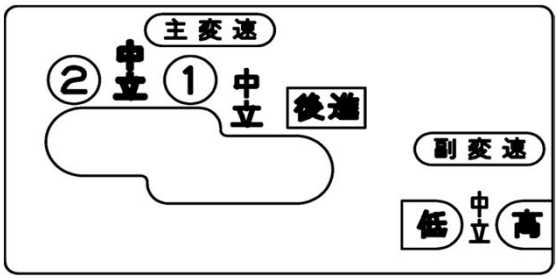
運転中は周囲に人を近付けないでください。傷害事故のおそれがあります。
傾斜地での運転や後進をするときなどは、ハンドルが持ち上がり、体や首をはさまれるおそれがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
狭い場所での運転や後進の運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上方などまわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。

1. タタキイタクラッチレバーおよび、ロータリクラッチレバーが「**切**」の状態になっている事を確認します。

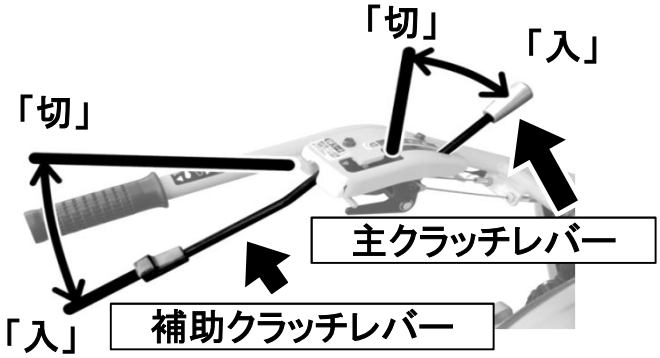


運転のしかた

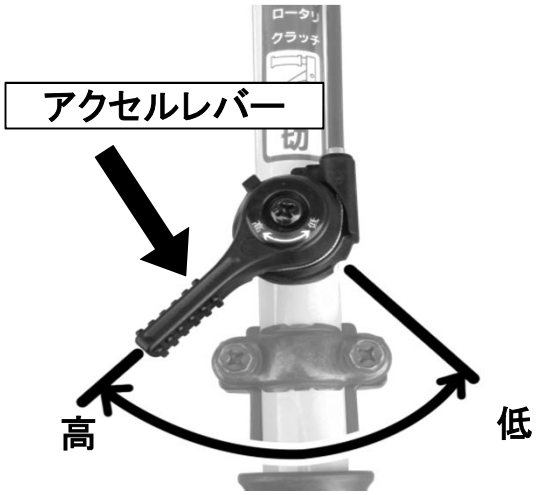
2. 主クラッチレバーが**「切」**の位置にあることを確認した後、主変速レバー及び副変速レバーを希望の変速位置にします。



3. 主クラッチレバーを**「入」**にすると発進します。



4. アクセルレバーを操作して速度を調節します。

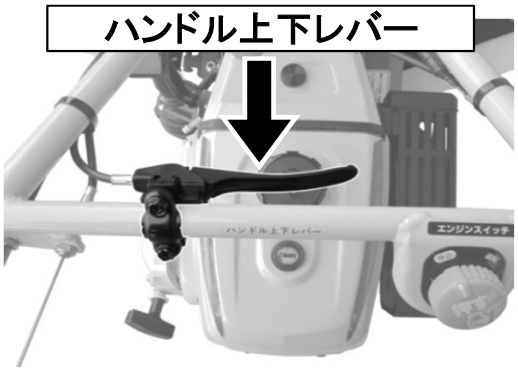


ハンドル高さの調節

⚠注意

平坦な場所に安定させて、主変速レバー副変速レバーを「中立」にし、作業機クラッチレバーを「切」にしてください。
さらに、主クラッチレバー、ロータリクラッチレバーを「切」にしたうえでハンドル高さを調節してください。
傷害事故のおそれがあります。

1. ハンドル上下レバーを握るとハンドルの高さが調節できます。
作業に合わせて調節してください。



運転のしかた

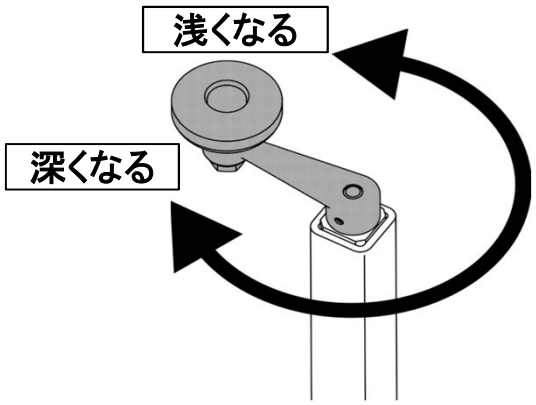
耕深の調節

⚠警告

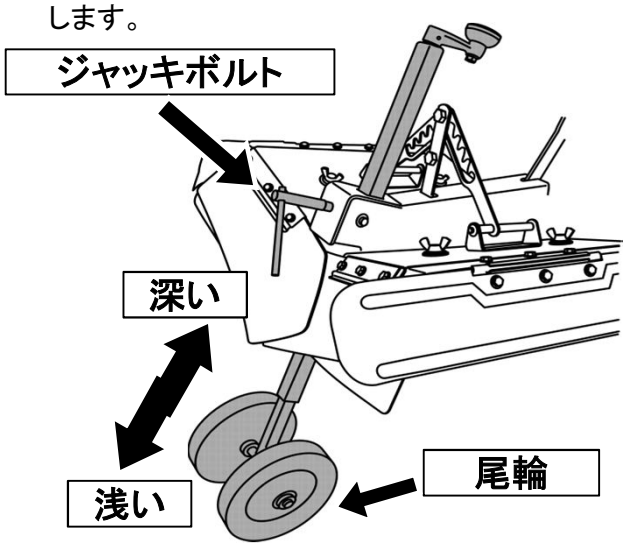
調節時は必ずエンジンを停止してください。
傷害事故のおそれがあります。
耕深を深くしすぎると、思わぬ方向に機体が飛び出し傷害事故につながるおそれがあります。浅めの耕深から除々に調節してください。

尾輪の高さにより耕深を調節します。

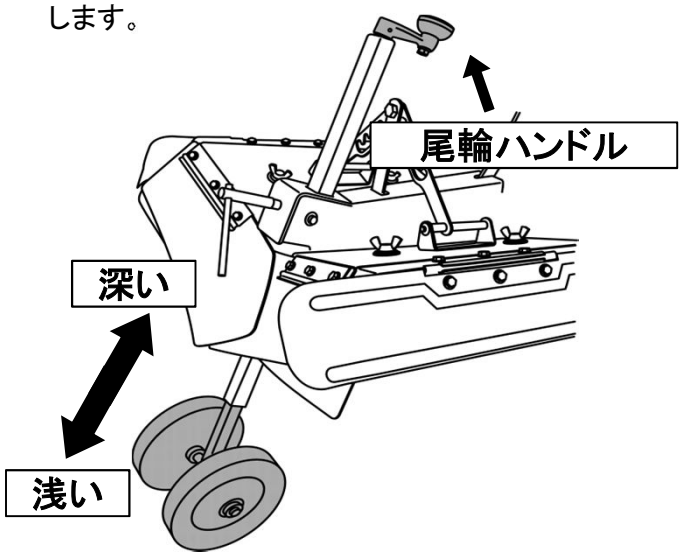
尾輪	耕深
上げる	深い
下げる	浅い



◆ジャッキボルトによる調節
ジャッキボルトを緩め、尾輪の位置を調節します。



2. 尾輪ハンドルによる調節
尾輪ハンドルを回転させ尾輪の位置を調節します。

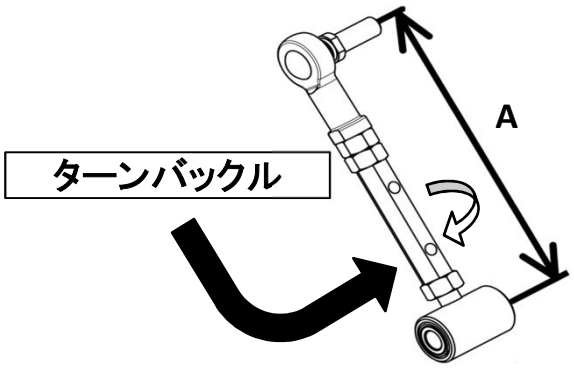


タタキイタの調節

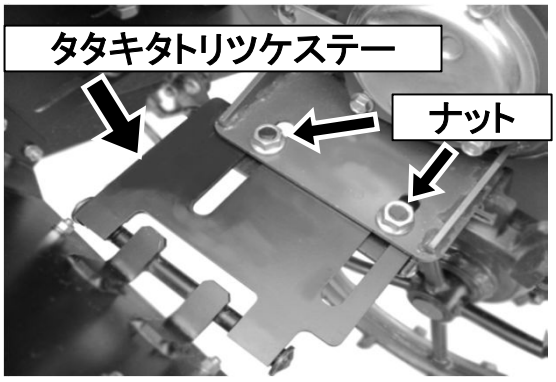
⚠警告

調節時は必ずエンジンを停止してください。
傷害事故のおそれがあります。
調節後は必ずカバーを取付けてください。
傷害事故のおそれがあります。

◆叩き幅を広くする(外に広げる)
1. ターンバックルを**左**に回し、A部を伸ばします。

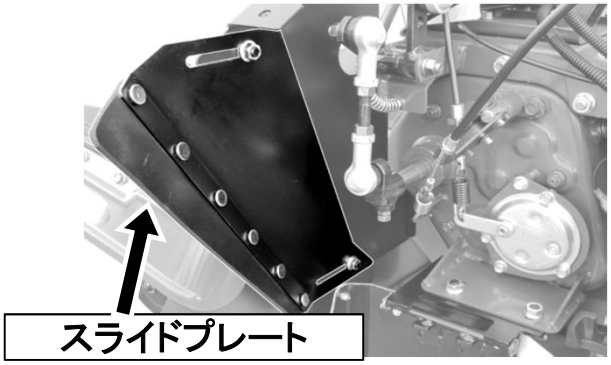


2. タタキイタトリツケステーのナットを緩めタタキイタ自体を外に引き出し固定します。

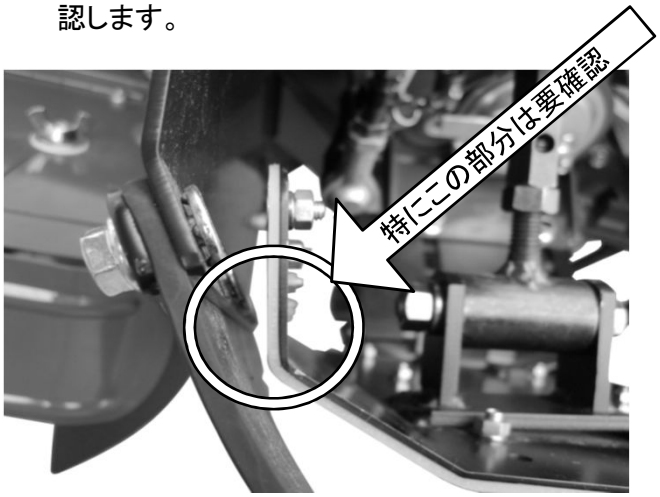


運転のしかた

3. スライドプレートを土の邪魔をしない程度に引き出し、固定します。

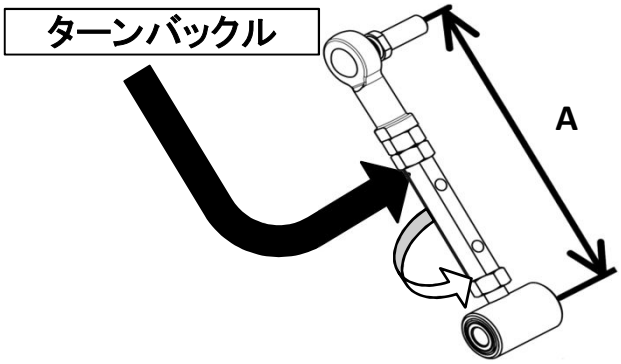


4. タタキイタクラッチを**「入」**にし爪軸を手で回しタタキイタを動かし干渉がないことを確認します。

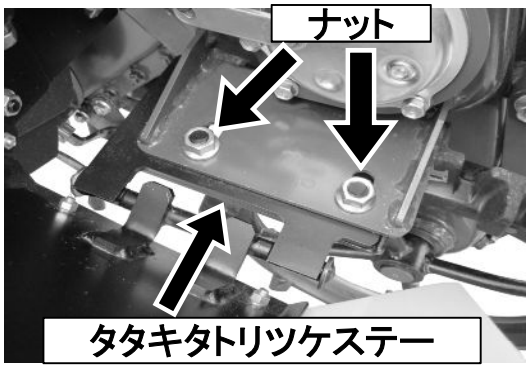


◆叩き幅を狭くする（内側に縮める）

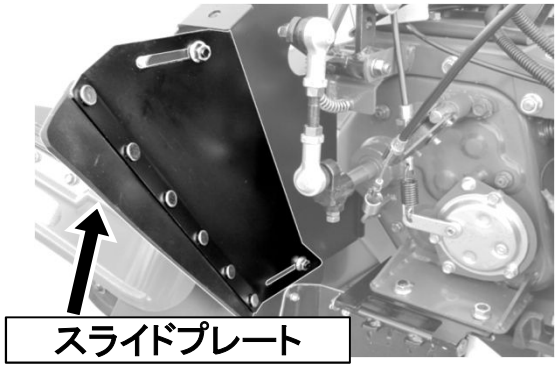
1. ターンバックルを**右**に回し、A部を縮めます。



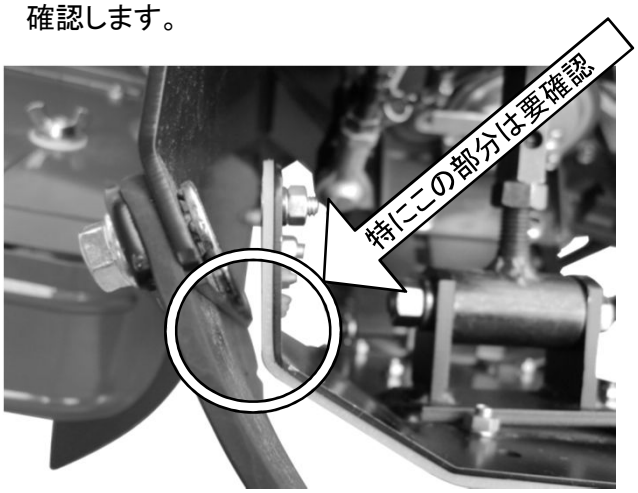
2. タタキイタトリツケステーのナットを緩めタタキイタ自体を内側に押し込み固定します。



3. スライドプレートを土の邪魔をしない程度に押し込み、固定します。



4. タタキイタクラッチを**「入」**にして爪軸を手で回しタタキイタを動かし干渉がないことを確認します。

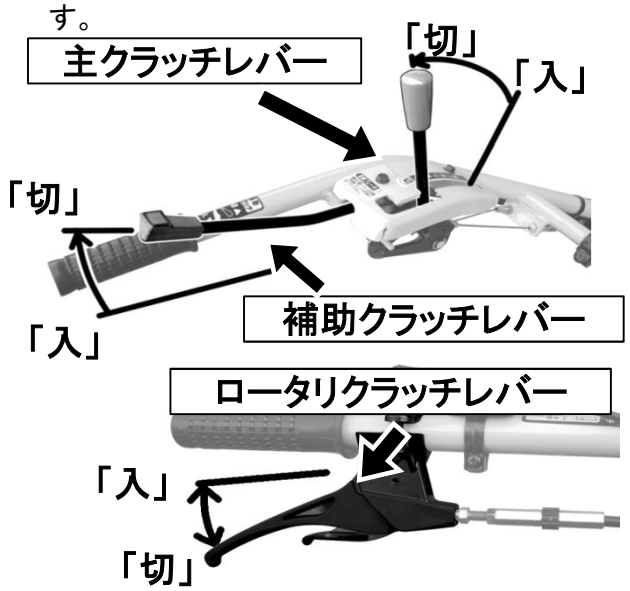


作業のしかた

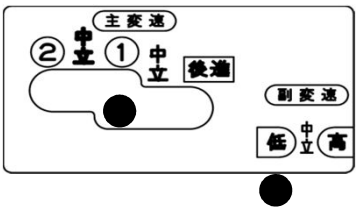
上手な運転のしかた

■土揚げ作業（タタキイタを使用しない場合）

1．主クラッチレバー、ロータリクラッチレバーが**「切」**の状態になっていることを確認します。



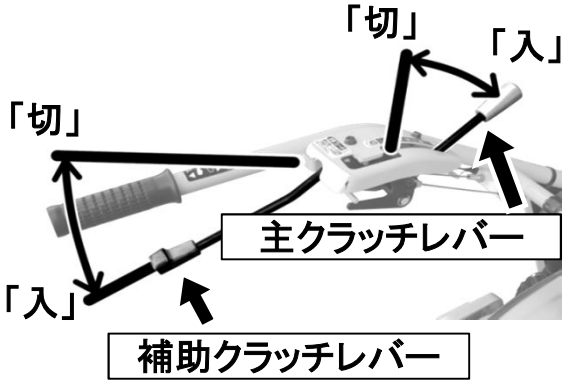
2．主変速レバーを1速、副変速レバーを低にします。



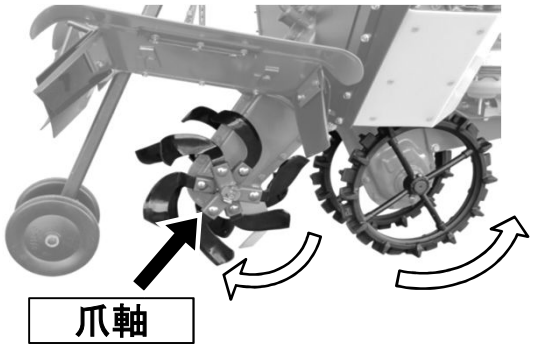
3．ロータリクラッチレバーを握り**「入」**にします。

4．アクセルレバーを操作しエンジンの回転数を上げます。

5．主クラッチレバーを**「入」**の位置にします。



6．機体が前進し、爪軸が回転し始めます。



7．土質により土の上がり具合が違いますので土の具合をみながらアクセルレバーで回転を調節してください。

作業のしかた

■タタキイタを使用し畝をしめる
数回土揚げ作業を行い、畝の高さがタタキイタで叩ける高さになったらタタキイタで畝を叩いていきます。

※畝を叩く前に必ず確認してください。

※1．圃場が乾燥していないか。

圃場乾燥している場合、叩いても畝がしまらないばかりか逆に崩してしまいます。土が適度に湿っている時に作業を行ってください。
土を一握り持って軽く握りしめ崩れない位が適当です。

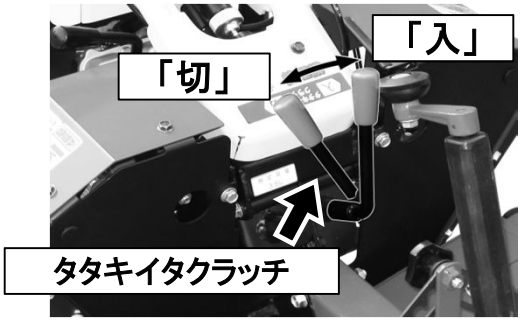
※2．枯れた葉が垂れていないか。雑草が畝の側面に繁茂していないか。

枯れた葉が垂れている場合や、雑草が繁茂している場合、揚げた土と畝の接着面が少なくなり、叩いても畝をしめる事ができません。
作業前に枯れた葉や雑草を除去してください。
雑草の除去にはカタキリで畝を削ると効果的です。（カタキリセットは標準装備ではありませんので別途ご購入ください）

1．主クラッチレバー、ロータリクラッチレバーが**「切」**になっていることを確認します。

2．主変速レバーを**「1速」**、副変速レバーを**「低速」**にします。

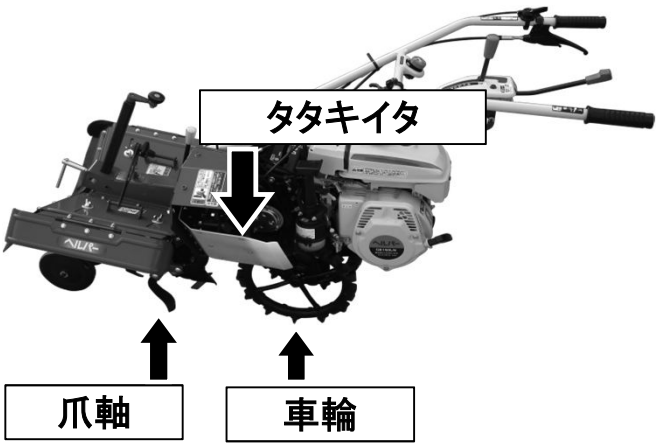
3．タタキイタクラッチを**「入」**にします。



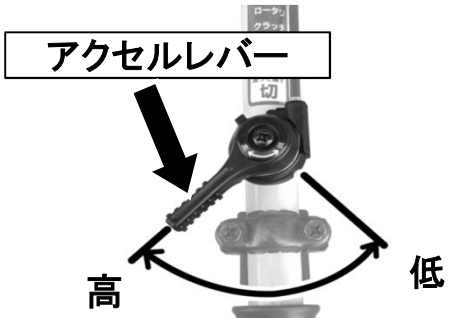
4．ロータリクラッチレバーを**「入」**にします。

5．主クラッチレバーを**「入」**にします。

6．機体が前進し、爪軸が回転し始めると共にタタキイタが動き始めます。



7．畝の状態を見ながら、アクセルレバーで土の揚がりを調節してください。



◆作業上の注意
1．P15、P16を参照しながらそれぞれの畝に合わせタタキイタの調節を行ってください。

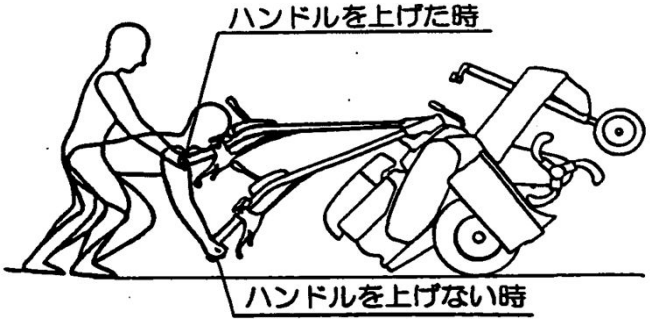
2．タタキイタは土の付きにくい構造になっていますが、作業していくうちに付着する土があります。ひと畝作業を終えるたびにやわらかい木の棒などで土を掻き落してください。固いもので掻き落とすと傷の原因をなり、土がより付着するようになってしまいますので、絶対に行わないでください。
また、土を掻き落す作業の際は必ずエンジンを停止させ平坦な場所に機体を安定させて行なってください。

3．畝を作り始める時はまず主変速レバーを中立のままで爪軸を回して爪軸を充分に土に食い込ませてから前進させると畝の不完全部が短くなり畝の手直しが容易です。

作業のしかた

■方向転換時のハンドル調整

この機械はハンドルがエンジン側にある構造上、作業中に畝溝から出る時や方向転換する時などに、ロータリ側を高く持ち上げなければなりません。
この時、ハンドルを充分に下げるためには身体を深く折り曲げる無理な姿勢になります。このような時は、ハンドル上下レバーを握りハンドルを最高の高さにすることにより、ハンドルを下げる距離も小さくなり無理な姿勢をとらずに済み、方向転換も容易に行えます。



作業のしかた

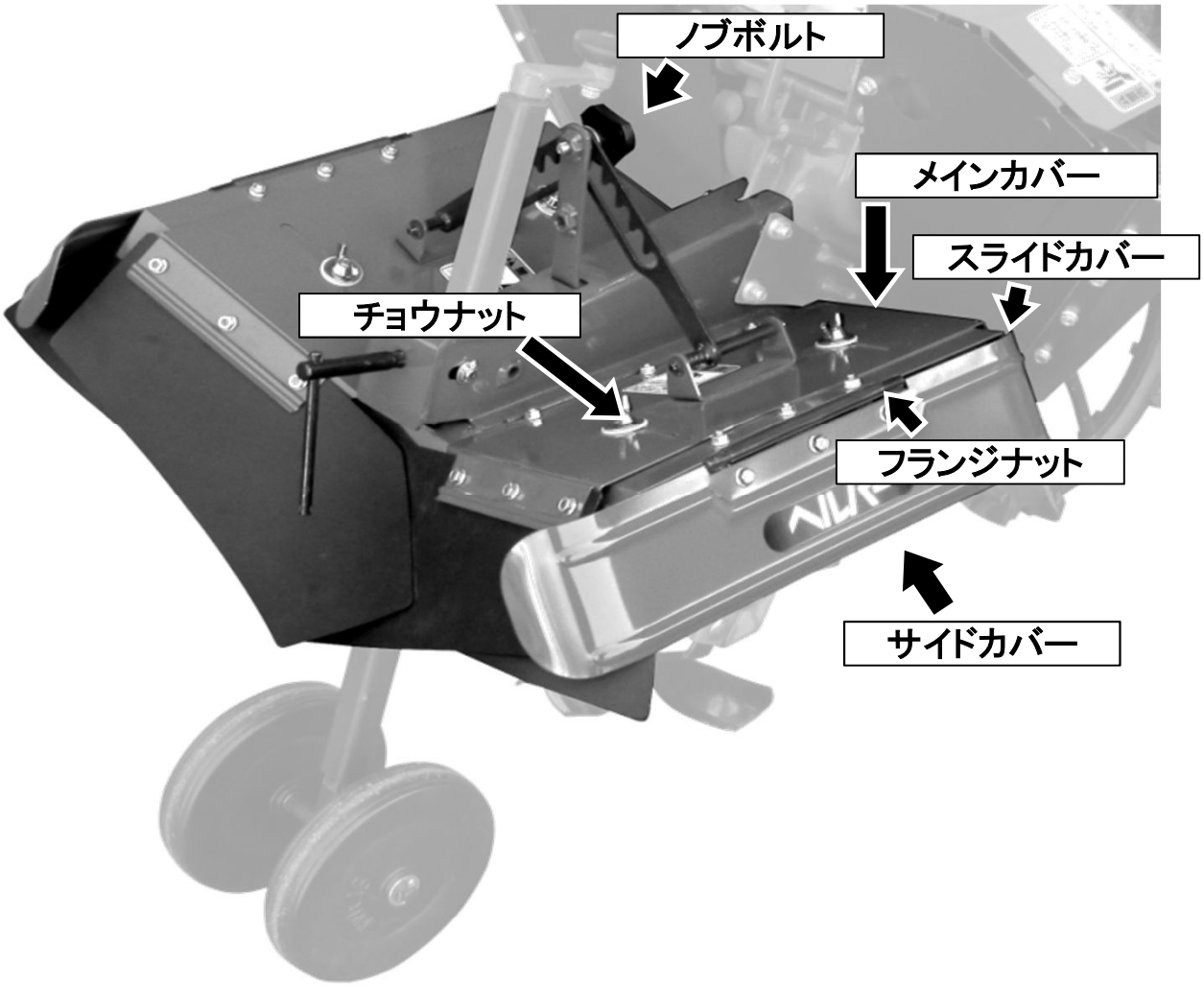
4．充分な高さの畝の成型には土の流れが重要です。カバーを調節して土がタタキイタの直前に多く流れるようにしてください。

■カバーの調節
※この機械での畝盛作業は土の流れが大変重要です。カバーを上手に調節して作業を行ってください。

◆メインカバーの開閉調節
支柱のノブボルトを緩めカバーの角度を調節します。調節が終わったら元通りノブボルトを締付けてください。

◆カバーの幅の調節
カバー上面にある蝶ナットを緩めスライドカバーを引き出すことでカバーの幅を調節します。
きれいな畝を作るためには左右対称になるように調節してください。

◆サイドカバーの調節
サイドカバーの開閉を調節することで、土の落ち方を調節します。サイドカバーは手で調節できますが、緩すぎて作業中に動いてしまったり、硬すぎて動かない場合はフランジナットの締め付けを調節してください。



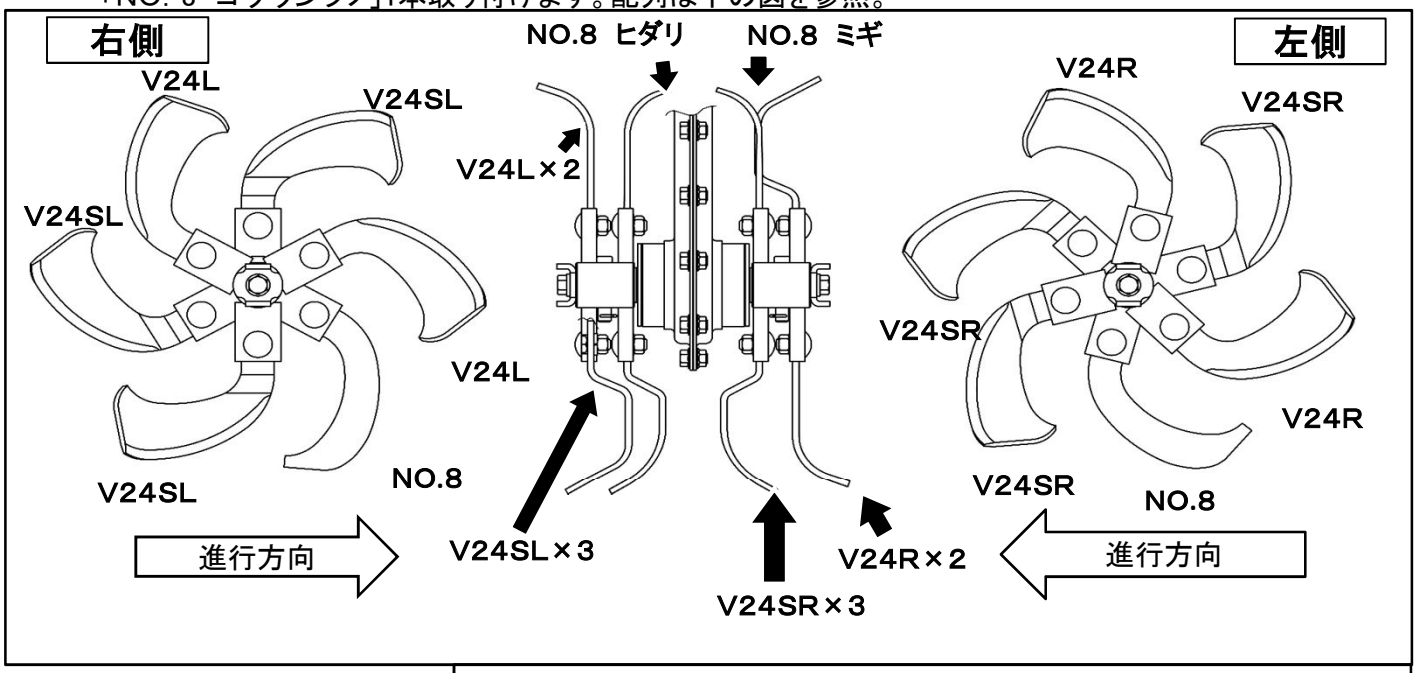
管理機の簡単な手入れと処置

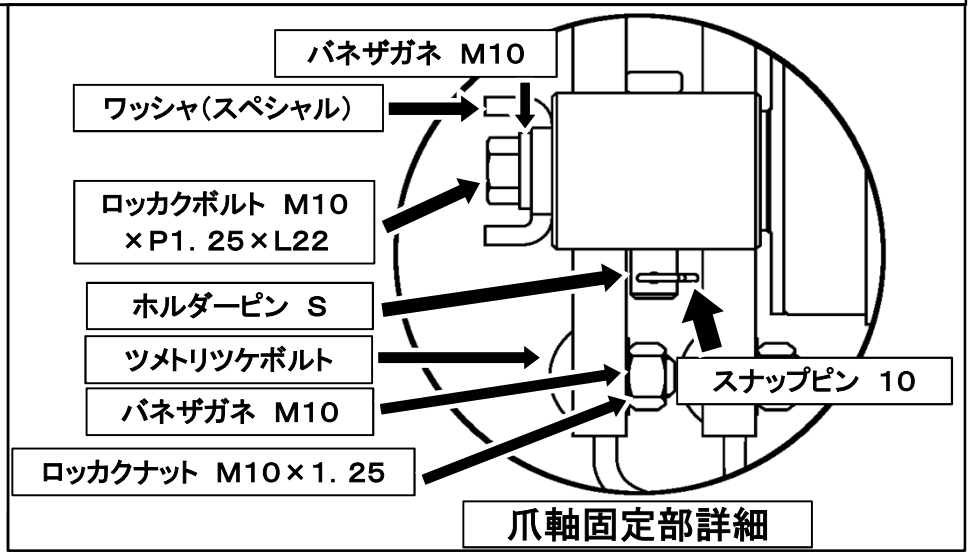
■耕うん爪の取り付け方

⚠警告

爪の交換時は、エンジンを停止してください。
爪交換時はロータリについた土を落とし、ロータリ部が落下しないようにしてください。
上記の手順をおこたると、傷害事故の危険があります。

◆耕うん爪取付け方は以下の通りです。
*外側の3つのホルダーに「V24」を2本と「V24S」を1本、内側のホルダーに「V24S」を2本
「NO. 8 コウウンヅメ」1本取り付けます。配列は下の図を参照。





組付け時、耕うん軸にグリスを塗っておくと取外しが楽になります。

◆締付けトルク 48～55.9N・m

重 要

爪の内外の向き、ならびに種類を間違えないようにしてください。
作業前は爪の取付けボルト・ナットに緩みがないか確認し、増し締めしてください。
爪を交換時は、ボルトを確実に締めてください。

管理機の簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について

⚠警告

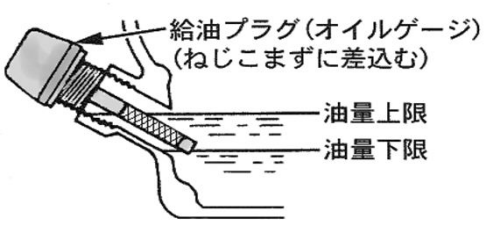
廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
機械から廃油を抜く場合、容器に受けてください。
地面への垂れ流しや、河川、湖沼、海岸への投棄はしないでください。
廃油、ゴム類、その他の有害物質を廃棄、又は焼却するときには、購入先、または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

日常の手入れ

⚠注意

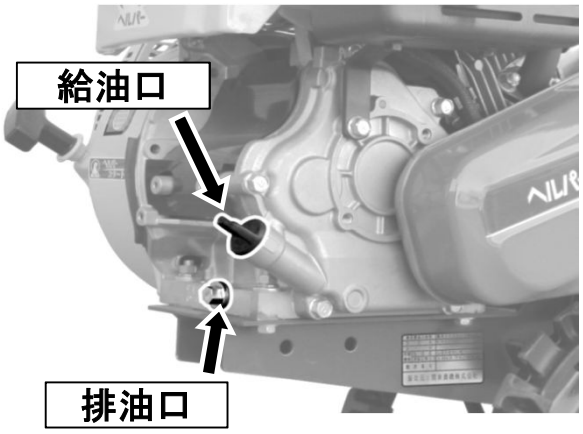
給排油・点検・調整・清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラが充分に冷えてから行ってください。
作業の際は平坦な場所に機械を安定させて行ってください。

■エンジンオイルの交換
◆給油のしかた
エンジンを水平にしてオイルゲージを用いて、規定量まで入れます。

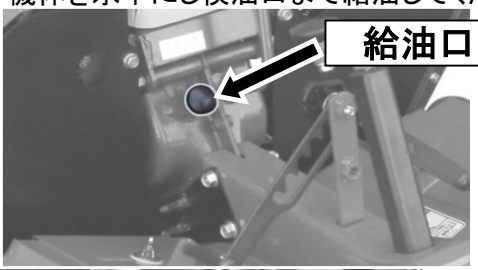


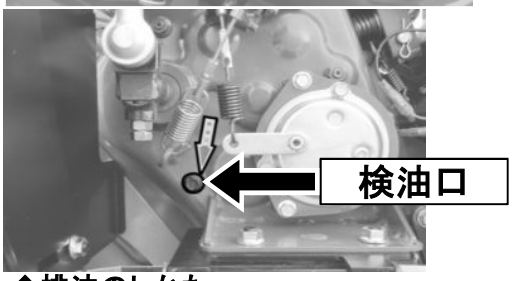
◆排油のしかた
機体を水平に安定させプラグを外し、廃油してください。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

重 要
粗悪なオイルを使用しますと、エンジン等の寿命を急激に縮めますので、ご購入先でエンジンオイル10W-30とご指定の上お求めください。(次頁**オイルの点検と交換表**参照)
排油・検油・給油後はプラグを確実に閉めてください。

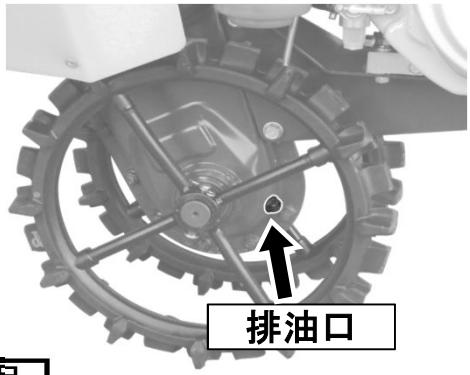


■ミッションオイルの交換
◆給油のしかた
機体を水平にし検油口まで給油してください。





◆排油のしかた
ミッションケース車軸側にある排油プラグを外し排油します。この時、必ずオイルパン等で受けてください。



補 足
給油口の給油口栓を外すとオイルの出がスムーズになります。

管理機の簡単な手入れと処置

重 要

粗悪なオイルを使用しますと、機械の寿命を急激に縮めますので、ご購入先でミッションオイル＃80又は＃90をお求めください。（下の**オイルの点検と交換表**を参照）
排油・検油・給油後はプラグを確実に閉めてください。
オイルを交換する場合は排油プラグを外して排出しますが、ケース内のゴミも同時に排出させるため、できるだけ運転使用後オイルが暖まっている状態の時排出してください。

オイルの点検と交換表

項目（オイル量）	点検方法	交換		オイルの種類
		第一回目	以後	
エンジンオイル	エンジン水平	20時間後	50時間毎	10W-30
ミッションオイル	機体水平	20時間後	年一回	＃80又は＃90

■エアクリーナエレメントの清掃とオイルの交換

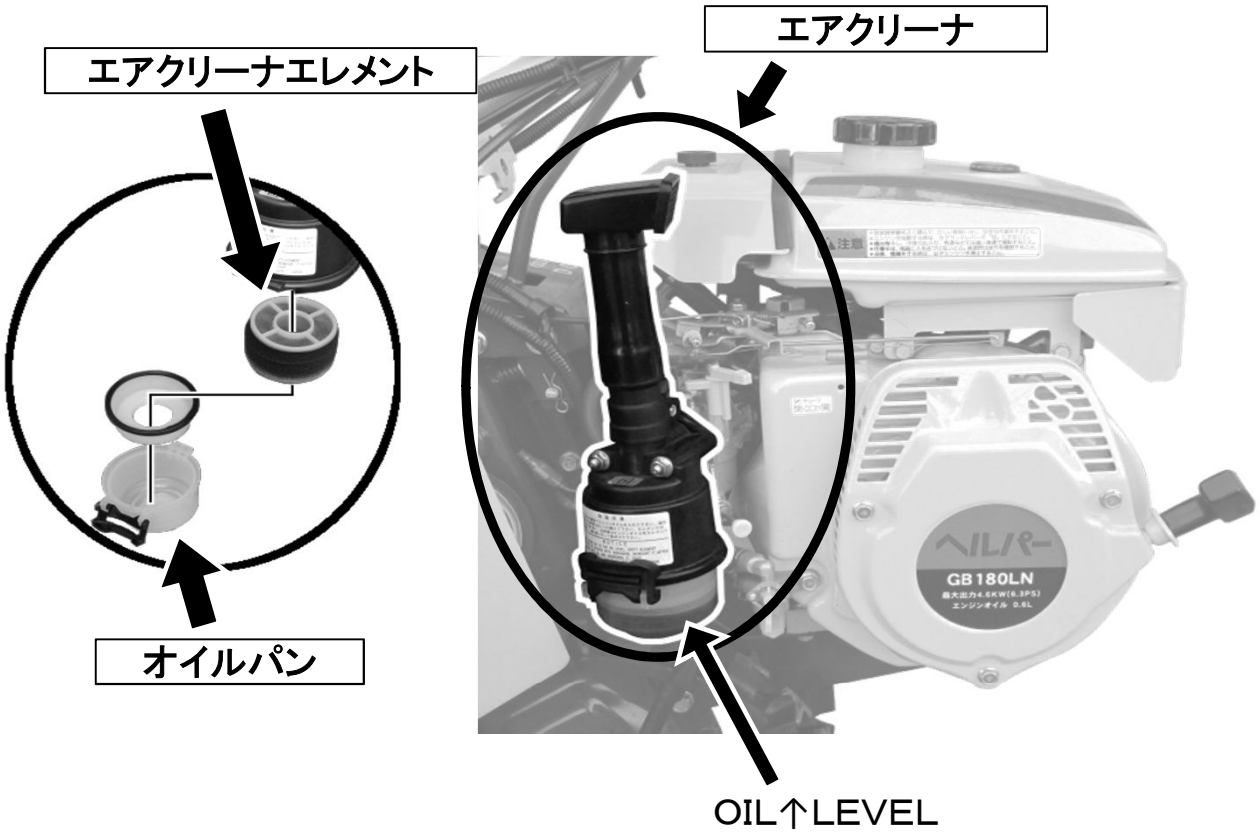
1．エレメントは時々灯油で洗い、エンジンオイルを塗布し、よく振り切ってから取付けてください。
2．オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジオイルを規定量入れてください。
●規定量・・・・OIL↑LEVELと記載されているところ

重 要

エアクリーナを取外したままエンジンを始動しないでください。ゴミやホコリを吸い込みエンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。
また、エレメントが汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

エレメント（オイル）	清掃	通常	通常
		ホコリの多い場合	毎日
	交換	汚れがひどい時	

チリやホコリの多い時はエアクリーナ吸入口をチリやホコリの少ない方向に向けてください。
オイルパンに規定量よりエンジンオイルを入れすぎるとエンジン不調の原因となります。



管理機の簡単な手入れと処置

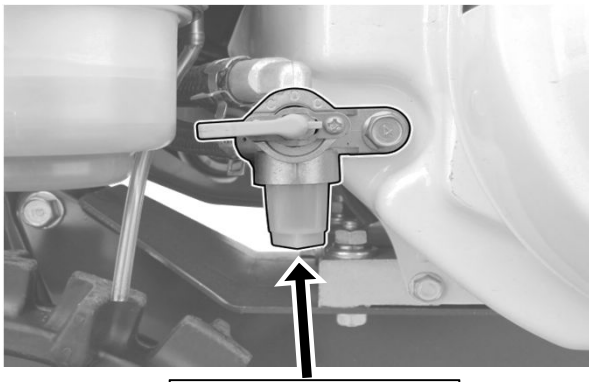
■燃料フィルタの清掃

⚠注意

取付後、ガソリン漏れがないか確認してください。

1．燃料フィルタは燃料のゴミを取り除きます。取り除かれたゴミは、ポッドの底にたまります。
2．燃料コックレバーを「C」(閉)にし、フィルタポッドを外し、ポッドの底にたまっているゴミや水を捨てます。

50時間使用毎に清掃してください。
汚れのひどい場合は交換してください。



フィルタポッド

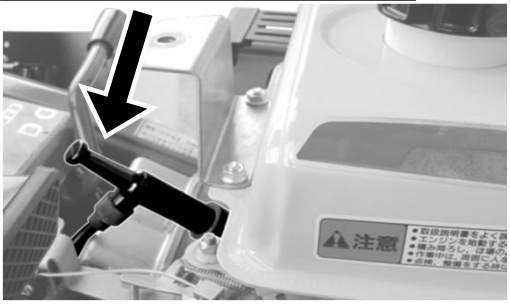
■点火プラグの調節・清掃・交換

⚠注意

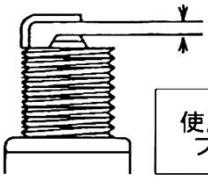
高温部が冷えてから行ってください。

1．点火プラグキャップを外し点火プラグを露出させます。

点火プラグキャップ



2．付属のプラグボックスでプラグを取外して電極に付着したカーボンを取り除き、紙ヤスリでみがきます。
3．電極のすきまが0.6～0.7㎜になるように調節してください。
4．点検調整は6ヶ月毎に行ってください。



使用点火プラグ	BP6HS(NGK) W20FP(デンソー)

5．作業が終わったら、点火プラグキャップを元に戻してください。

重要

プラグ締付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめは手で閉め込んでから、プラグボックスで締付けてください。
調節・清掃してもエンジンが不調なときは新しいプラグと交換してください。
プラグを外したまま始動操作をしないでください。

管理機の簡単な手入れと処置

■Vベルトの張りの調整

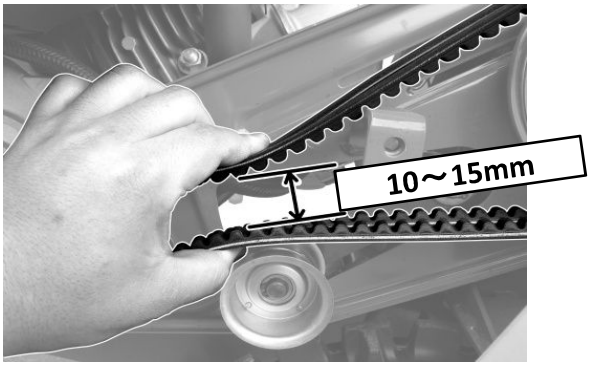
⚠警告

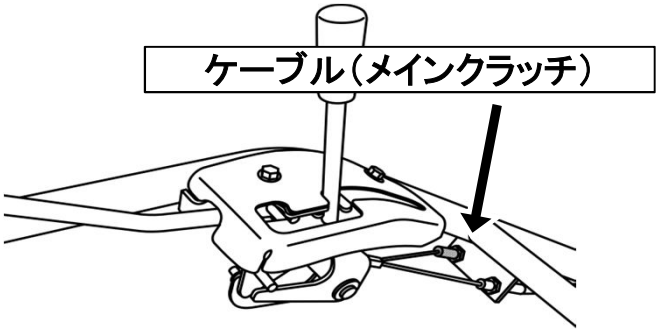
ベルト調整を行う場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。
調整が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。
エンジンを始動する前に、変速レバーを中立にしてください。
調整・確認時は周囲に人や動物を近付けないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

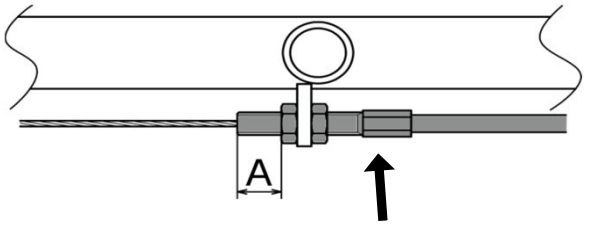
◆ケーブル（メインクラッチ）による調整

1．ベルトカバーのボルトを外して、ベルトカバーを取外します。
2．主クラッチレバーを入れた状態で、ベルトの中央部を指で押さえ10～15㎜たわむ程度にナットで調節します。調整後は両側からナットで固定してください。
なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後ケーブルを調整してください。

※ケーブル（メインクラッチ）はボウゴカバー側に伸びているケーブルです。





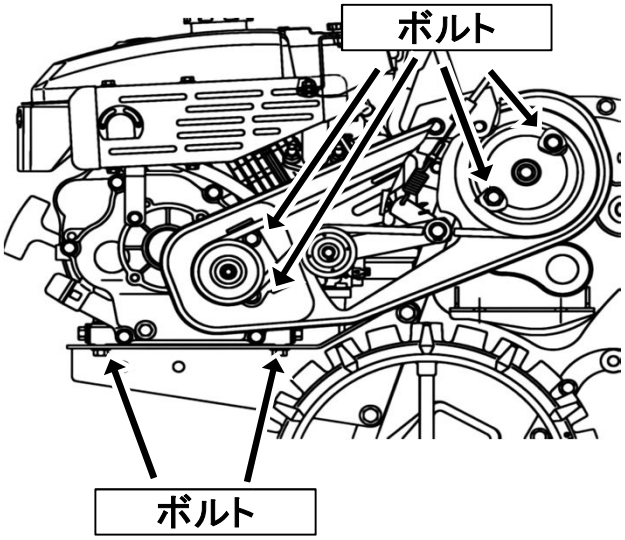


状態	対処法
ベルトが張らない	Aを短くする
ベルトが張りすぎ	Aを長くする

◆エンジン前後によるベルトの調整

ケーブルの調節可能範囲では調節しきれない場合や、新しいベルトに取り換えた場合はエンジンを前後に移動させて調節します。

1．ベルトカバーのボルトを外し、ベルトカバーを外します。
2．プーリを止めているボルトを外し、プーリを外します。
3．ボウゴカバーの4本のボルトをゆるめます。調節後は確実に固定してください。
4．エンジンを固定しているボルトをゆるめて調節します。調節後は確実にボルトを固定してください。



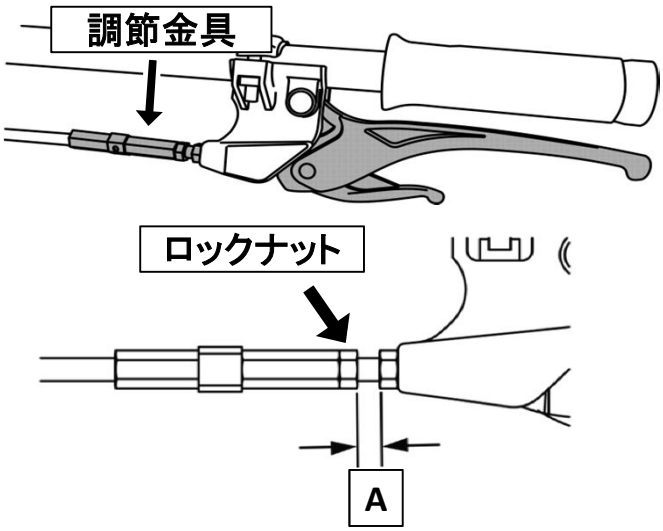
重 要

使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後ケーブルを再調節してください。
ケーブル（メインクラッチ）やエンジンの前後によりベルトの調節を行った場合、必ずエンジンを始動しクラッチの**「入」「切」**が確実に行えるか確認してください。

◆新しいベルトに交換する場合はベルトの中央部を指で挟んですき間が約30㎜くらいにしてエンジンを固定しているボルトを締付けてください。

管理機の簡単な手入れと処置

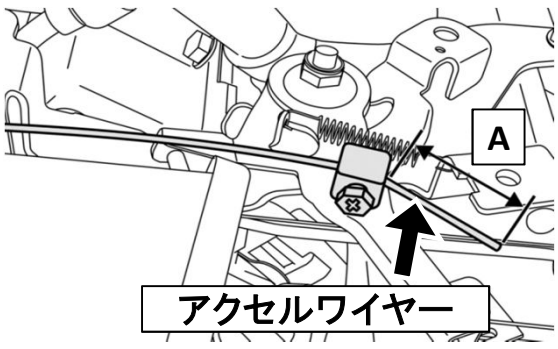
■ロータリクラッチの調整
ロータリクラッチレバーによりロータリ爪軸の回転、停止が確実に行えるか点検します。
ロータリの「入」「切」が確実に行えない場合、ケーブルの調節金具で調節してください。
調整後はロックナットで固定して下さい。



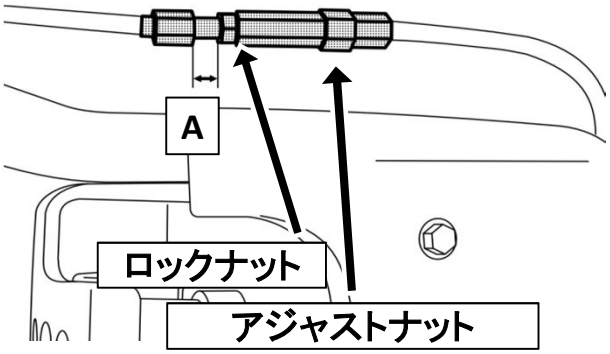
状態	対処法
クラッチが入らない	Aを長くする
クラッチが切れない	Aを短くする

重 要
調節しても改善されない、動作に不安がある場合はすぐにご購入いただいた販売店にご連絡ください。

■アクセルレバーの調整
アクセルレバーを最高回転にしてもエンジン回転数が上がらないときは、アクセルワイヤーを止めているネジをゆるめて調整します。
ワイヤーのA部が長くなるように調整するとエンジン回転数が高くなります。
調整にあたっては、ご購入先にご相談ください。

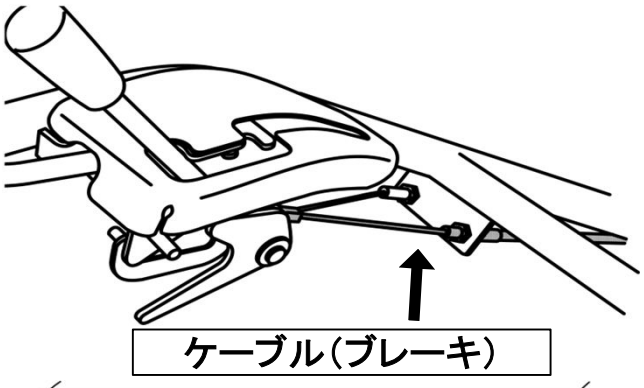


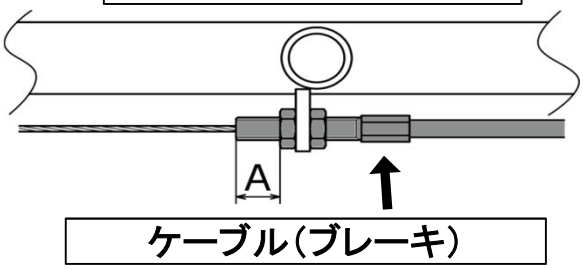
■ハンドル上下レバーの調整
ハンドル上下レバーを握ってもハンドルが上下しないまたは調子の悪い時は、ケーブルのアジャストナットの長さを調整します。
ハンドルの穴にピンが確実にはいっている事を確認したら、アジャストナットをロックナットでしっかりと固定します。



状態	対処法
ハンドルにガタつきがある	Aを長くする
ハンドルが上下しない	Aを短くする

■ブレーキの調整
ブレーキを引いても動く場合や、ブレーキを解除したのにブレーキがかかっている場合はケーブル（ブレーキ）の調節金具を調節してください。





状態	対処法
ブレーキが利かない	Aを長くする
ブレーキが切れない	Aを短くする

重 要
調節しても改善されない、動作に不安がある場合はすぐにご購入いただいた販売店にご連絡ください。

管理機の簡単な手入れと処置

使用後の手入れ

使用後は、必ずその日のうちに清掃を行い各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部が錆びないよう油やグリスを及び防錆剤を塗布してください。
特にファンカバー内にゴミがつまりやすいので、エンジンの焼きつきなどの防止のためよく点検・清掃を行ってください。

重要
水洗いの時、エアクリーナ吸込口から水が入らないように気を付けてください。

■エンジン始動不良を防ぐために
エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めてください。

重要
コックを開いたままで保管したり、前倒しにしたり、または車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難になる場合があります。またクランクケース内にガソリンが流入することもあります。

■長期格納時の手入れ

⚠注意
火災予防のため、カバーをかけたり納屋に保管する際はエンジンが充分に冷えた事を確認してから行ってください。
燃料がこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。爆発・火災のおそれがあります。

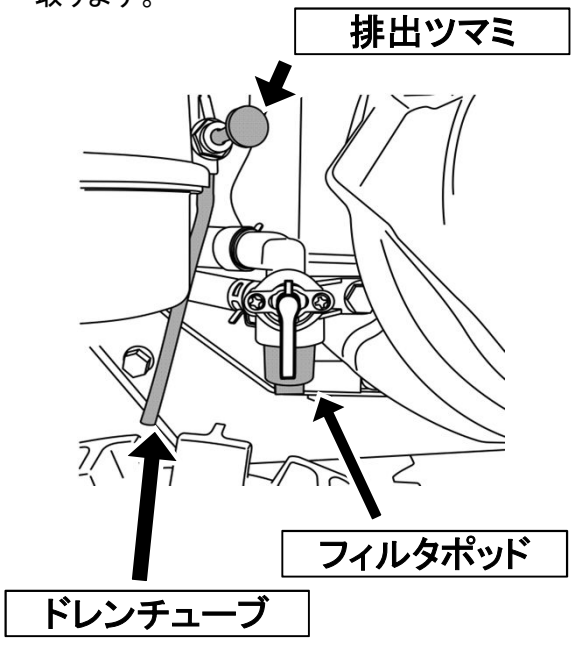
1. 主クラッチレバーは「切」の状態にして保管します。
2. 燃料タンク・キャブレター・フィルタボッド内のガソリンは全て抜き取ります。（1ヶ月以上使用しない時）
3. オイルを交換し、各部をきれいに清掃します。
4. エアクリーナエレメントを清掃しておきます。
5. エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するためにリコイルスタータハンドルを引っ張って、圧縮位置で止めておきます。
6. カバーを掛け、湿気やホコリのない場所に置きます。

重要
圃場に保管していると、地面からの湿気が多いのでさびやすくなります。

■燃料の抜き取り

⚠注意
燃料を抜きとるときはエンジンを停止し、エンジンやマフラが充分に冷えてから行ってください。
火気厳禁。くわえ煙草での作業は絶対にしないでください。
燃料がこぼれた時はきれいに拭き取ってください。

1ヶ月以上使用しない時は、燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜き取り、キャブレタ内は排出ツマミを引いて、フィルタポッドは外して内部のガソリンを全部抜き取ります。



重要
燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレタ内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。

管理機の簡単な手入れと処置

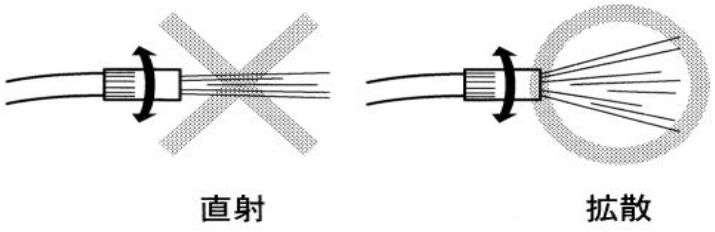
洗車時の注意

高圧洗浄機の使用方法を誤ると人にケガをさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗浄機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用して下さい。

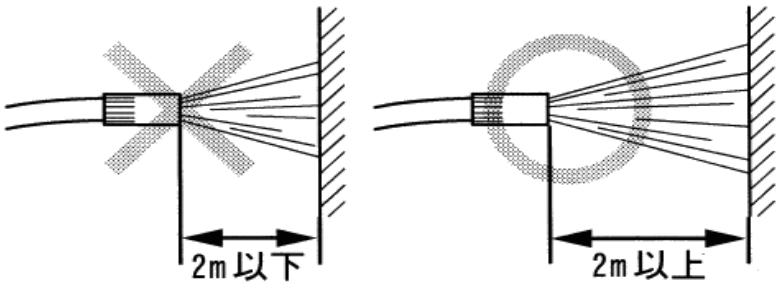
⚠注意

機械を破損させないように洗浄ノズルを拡散にし2m以上離して洗浄してください。
もし、直射したり、不適切な近距離から洗車すると、
1. 電気配線部被覆の破損・断線により、火災を引き起こす恐れがあります。
2. 機械の破損・損傷・故障原因になります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例)(1) シール・ラベルの剥がれ。
(2) 電子部品・エンジン等への侵入による故障。
(3) 車輪・オイルシール等のゴム類樹脂類等の破損。
(4) 塗装・メッキ面の皮膜の剥がれ。

直射洗車厳禁



近距離洗車厳禁



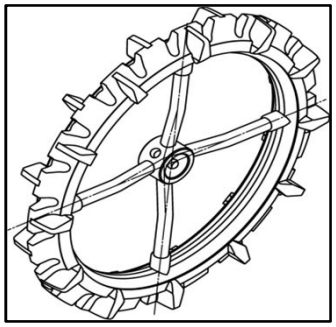
管理機の簡単な手入れと処置

自動車（トラック）への積込み、運搬

⚠注意

※ 積込み、運搬は平坦な交通のじゃまにならない安全な場所で行ってください。
※ アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐えられるもので、トラックの荷台の高さ[1]に対してアユミの長さ[4以上]のものを使用し、確実に固定して下さい。
※ 足元に注意し車速は最低速で上りは[前進]、下りは[後進]で行なってください。
※ 途中で主クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒の恐れがあります。
※ トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさむ恐れがあります。
※ トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を積込み・積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは別に用意しておいた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災の恐れがあります。

1. トラックを平坦な場所に止め、駐車ブレーキをかけます。
2. あゆみ板を荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で、上りは[1速]で、下りは[後進]で行なってください。
4. 運搬時は車輪幅を広くし、尾輪を上げ爪と車輪がしっかり床面に着くようにします。
5. 機体は荷台にロープで確実に固定します。

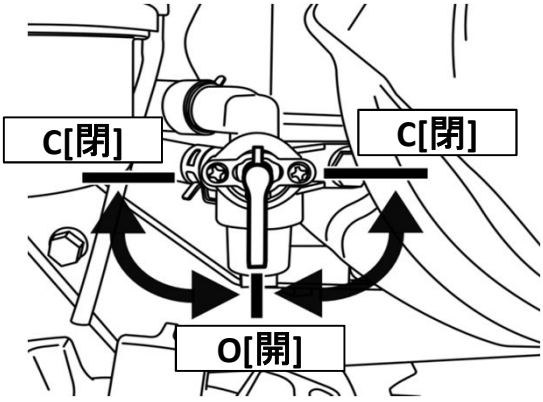


6. 機体にロープを掛けるときは、ハンドル・尾輪の2箇所を固定してください。

7. 燃料コックレバーを[閉]にします。
8. 雨天時はエアクリーナーの吸気口にカバーをかぶせてください。

重 要

※ロープを掛けるときは、変速レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないように気をつけてください。
破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
※エアクリーナーの吸気口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ボコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。
※燃料コックレバーを[開]いたまま運搬すると、キャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難になります。また、クランクケース内にガソリンが流入することがあります。



付表

主要諸元

品番			231590000000000
販売型式			K652NP
機体	全長(mm)		1604
	全幅(mm)		700
	全高(mm)		1100
	装備重量(kg)		102
エンジン	型式名		GB180LN-377
	総排気量(cc)		181
	出力/回転数(kw(PS)/rpm)		3.4(4.7)/1800
	最大出力(kw(PS))		4.6(6.3)
	エアクリーナ方式		マン式オイルバス
	始動方法		リコイルスタータ
	点火方法		無接点式マグネト点火
	燃料タンク容量(L)		自動車用無鉛レギュラーガソリン 3.0L
	潤滑油容量(L)		0.6L
走行部	車軸径・形状		φ28・丸軸
	車輪		ゴムラグ車輪(直径350mm)
	輪距(芯-芯)(mm)		126(最大154)
	主変速段数		前進2段 後進1段
	副変速段数		2段
	車速	前進(km/h)	0.57、0.87、2.0、3.0
		後進(Km/h)	0.8、1.2
ロータリ	爪軸回転速度(rpm)		635
	耕幅(mm)		240
	爪回転径(mm)		350
	爪軸の軸径・形状		φ29・丸軸
PTO軸回転数(rpm)			344

付表

標準付属部品

品名	数量/台	備考
プラグボックス	1	
プラスドライバー	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	

主な消耗部品一覧

品名	品番	数量	備考
コグベルト（SA-38）	231600000108000	2	
ケーブル（メインクラッチ）	231600000310000	1	主クラッチ用
ケーブル（ブレーキ）	231590000316000	1	ブレーキ用
ワイヤーハーネスK652NP	231590000318000	1	電装用
ホイルピン　φ10×56	284200000416000	2	車輪固定用
スナップピン　10	0551571000	2	車輪固定用
ホルダーピン　S	041261126205001	2	爪軸固定用
スナップピン　10	0551571000	2	爪軸固定用
ワッシャ（スペシャル）	231550000405001	2	爪軸固定用
バネザガネ　M10	0451270100	2	爪軸固定用
ロッカクボルト　M10×1.25×22	0117371022	2	爪軸固定用
ツチアゲツメ　V24　ミギ	057164636251000	2	爪
ツチアゲツメ　V24　ヒダリ	057164636252000	2	爪
ツチアゲツメ　V24S　ミギ	057164636253000	3	爪
ツチアゲツメ　V24S　ヒダリ	057164636254000	3	爪
NO.8　コウウンヅメ(ミギ)	111110110331000	1	爪
NO.8　コウウンヅメ(ヒダリ)	111110110332000	1	爪
ツメトリツケボルト	282130000417000	12	爪取付用
バネザガネ　M10	0451270100	12	爪取付用
ロッカクナット　M10×1.25	0211870100	12	爪取付用

トラブルと処置

■エンジンが始動しない

原　因	処　置
● 始動手順が間違っている。	正しい順序で始動する（12ページの「運転のしかた」参照）
● タンクにガソリンを入れたまま1ヶ月以上保管しガソリンが腐った。	タンク・キャブレター内の腐ったガソリンを排出し、新しいガソリンを入れる。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを掃除する。 また新しいものと交換する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● チョークを引いた（閉じた）状態でリコイルを何回も引過ぎガソリンを吸いすぎた。	チョークを戻し（開き）リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
● エンジン停止後、燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したためキャプレターがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
● エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。 または新しい物と交換する。
● 点火プラグの火花が弱い。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。 または新しい物と交換する。

■エンジン回転数が上がらない、不安定、出力が低下するとき

原　因	処　置
● エンジンが暖まってもチョークを引いた（閉じた）まま運転している。	チョークを戻す（開く）。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外して清掃する。 キャブレター内のガソリンも排出する。
● エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して清掃する。
● アクセルワイヤーの引っ張りが不足している。	ワイヤーのセット位置を調節する。

■エンジンが振れる、異音が発生する

原　因	処　置
● エンジン取付けボルトがゆるんでいる。	取付けボルトを締付ける。

■ハンドルのガタが多い

原　因	処　置
● ハンドル回転部のガタが多い。	ハンドル締付けボルトを締め直す。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等でご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするよう研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷されていますので、安心してお使いいただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

品番　2315900007510 01

・製品のご相談は下記の販売店へ

関東農機株式会社

本社工場/本社営業所　〒323-0819　栃木県小山市横倉新田　493
TEL　0285(27)3271(代)　FAX　0285(27)4627

鏡石工場/福島営業所　〒969-0403　福島県岩瀬郡鏡石町久来石字大町　57
TEL　0248(62)4131(代)　FAX　0248(62)4133

盛岡工場/東北営業所　〒028-4132　岩手県盛岡市玉山区渋民字岩鼻　20-55
TEL　019(683)1911(代)　FAX　019(683)1119

九州営業所　〒866-0813　熊本県八代市上片町　1351
TEL　0965(31)0730(代)　FAX　0965(31)0760